

2009年度

講義計画

桃山学院大学

回

十

義

講

科目名 クラス 講義区分		
資料分類法 <春>		
志保田	務	2 単位

【講義概要】

図書館における資料組織化のうち、主題からのアプローチとして分類と件名について講義する。

【学習目標】

図書館における資料組織化のうち、主題からのアプローチとして分類と件名について把握できるよう図る。下記の計画による。

【講義計画】

- 第1回 科目オリエンテーション、概説
主題からのアプローチa
- 第2回 「分類」と資料の分類
- 第3回 日本十進分類法
- 第4回 分類規程と各類概説
- 第5回 書架での配列（配架）
- 第6回 別置法と「図書記号」法
- 第7回 図書以外の資料分類
- 第8回 主題からのアプローチb
- 第9回 分類目録a
- 第10回 分類目録b
- 第11回 件名目録a
- 第12回 件名目録b
- 第13回 件名典拠ファイル
- 第14回 主題配列
- 第15回 総合

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

【教科書】

木原通夫 [ほか] 資料組織法 改訂6版 第一法規

科目名 クラス 講義区分		
資料分類法演習 <秋>		
志保田	務	1 単位

【講義概要】

図書館資料の分類と件名そのた、主題検索に関して講義、演習する。

【学習目標】

図書館資料の分類と件名そのた、主題検索に関して理解が図られるようする。

【講義計画】

- 第1回 主題によるアプローチ（概説） 分類概念 主要件名標目
表目標、シソーラス
- 第2回 日本十進分類法概説
- 第3回 日本十進分類法 補助表a
- 第4回 日本十進分類法 補助表b
- 第5回 日本十進分類法 各類概説a
- 第6回 日本十進分類法 各類概説b
- 第7回 分類記号付与の実際 書架分類 a
- 第8回 分類記号付与の実際 書架分類 b
- 第9回 主題目録法：分類目録と件名作業、シソーラス適用の実際
- 第10回 主題目録法 1 書誌分類 a
- 第11回 主題目録法 1 書誌分類 b
- 第12回 主題目録法 2 件名目録作業（基本件名標目表による）
a
- 第13回 主題目録法 2 件名目録作業（基本件名標目表による）
b
- 第14回 主題目録法 3 分類目録と件名作業：まとめ
- 第15回 総合

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

【教科書】

木原通夫 [ほか] 著 資料組織法 第6版 第一法規

さ
行

科目名 クラス 講義区分		
資料目録法 <春>		
志保田	務	2単位

【講義概要】

図書館における資料組織化のうち、目録法総論、書誌ユーティリティの活用、総合目録などに照準し、タイトル、著者からのアプローチとしてタイトル目録と著者目録中心に講義する。

【学習目標】

図書館における資料組織化のうち、タイトル、著者からのアプローチとしてタイトル目録と著者目録中心に、共同目録作業とうについて把握できるよう図る。下記の計画による。

【講義計画】

- 第1回 資料組織法とは：書誌検索システム
- 第2回 配架と目録の関係
- 第3回 目録法総論 1 目録の意義と種類
- 第4回 目録法総論 2 目録構築の基本方針：アクセスポイントの設定ほか
- 第5回 目録法総論 3 書誌情報ネットワークと図書館目録
- 第6回 目録法総論 4 集中目録作業
- 第7回 目録法総論 5 共同目録作業
- 第8回 目録規則と目録基準 1 意義等
- 第9回 目録規則と目録基準 2 西洋におけるその発展と国際化
- 第10回 目録規則と目録基準 3 日本におけるその発展と国際化
- 第11回 目録規則と目録基準 4 構造的把握、メタデータ他
- 第12回 目録規則の今後
- 第13回 目録編成法 1
- 第14回 目録編成法 2
- 第15回 総合

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 15% 出席 5%

【教科書】

木原通夫 [ほか] 資料分類法 第6版 第一法規

科目名 クラス 講義区分		
資料目録法演習 <秋>		
志保田	務	2単位

【講義概要】

図書館目録について演習する。

【学習目標】

図書館目録の演習をとおして、受講者に目録作成、目録検索の技量をつけてもらう。

【講義計画】

- 第1回 資料組織法演習と、資料目録演習
- 第2回 配架と目録の関係
- 第3回 目録法演習総論 1 目録の意義と種類
- 第4回 目録法演習総論 2 目録構築の基本方針：アクセスポイントの設定ほか
- 第5回 目録作成とアウトソーシング 1 書誌情報ネットワークと図書館目録の作成
- 第6回 目録作成とアウトソーシング 2 集中目録作業の活用
- 第7回 目録作成とアウトソーシング 3 共同目録作業への参加
- 第8回 目録作成とアウトソーシング 4 アウトソーシングの問題点
- 第9回 目録作成と各館の目録 (OPAC) 管理
- 第10回 各館目録 (OPAC) の作成と総合目録
- 第11回 総合目録と検索エンジン
- 第12回 記事索引 1 記事索引の意義と図書館
- 第13回 記事索引 2 記事索引の記述と外部データベース 1
- 第14回 記事索引 2 記事索引の記述と外部データベース 2
- 第15回 総合

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 15% 出席 5%

【教科書】

木原通夫 [ほか] 資料分類法 第6版 第一法規

科目名 クラス 講義区分	
人権教育論 01 < 通期 >	
久保井 規 夫	4 単位

【講義概要】

人権教育を、今日において、人権を侵害している一切の差別を許さず、人間の尊厳を守り進める力を培う教育として位置付ける。具体的な現実の人権問題を歴史的社会的に正しく認識する価値観を培い、学校現場での教育内容・展開の課題を学ぶ。

【学習目標】

1. 人権教育を、学校現場で、教師として実践・展開できる認識・力量の基礎を身に付けさせる。
2. 子どもたちを取り巻く現実から、人権を守り進めめ生きる力を培うことができる教師を目指させる。

【講義計画】

- 第1回 人権教育論 講義ガイダンス。
総論 日本の人権問題を学び考えよう
現代の人権問題を学び、教師として人権教育を実践・展開できる目標を確認する。
- 第2回 第一章 人権教育の意義
- 第3回 第二章 人権擁護を自らの課題として
- 第4回 第三章 部落差別の実態を知る
- 第5回 第四章 実質平等と真の解放
- 第6回 第五章 部落史・部落問題の虚と実Ⅰ 被差別部落の起源と身分制
- 第7回 第六章 部落史・部落問題の虚と実Ⅱ 被差別身分の変化と確立
- 第8回 第七章 部落史・部落問題の虚と実Ⅲ さまざまな被差別身分
- 第9回 第八章 部落史・部落問題の虚と実Ⅳ 人間の尊厳を守った人々
- 第10回 第九章 部落問題の始まりと解放への道Ⅰ 被差別身分の廃止
- 第11回 第十章 部落問題の始まりと解放への道Ⅱ 部落差別の始まり
- 第12回 第十一章 部落問題の始まりと解放への道Ⅲ 部落解放運動
- 第13回 第十二章 伝統文化に見る差別と人権
- 第14回 第十三章 聖賤・浄穢による差別と人権
- 第15回 第十四章 タブー視とマスコミと人権
- 第16回 第十五章 生活・環境と人権
- 第17回 第十六章 労働の価値観と職業差別
- 第18回 第十七章 フェミニズム、そしてジェンダーと人権
- 第19回 第十八章 日本の人種・民族差別と人権Ⅰ 国際化と日本在留外国人
- 第20回 第十九章 日本の人種・民族差別と人権Ⅱ 単一民族幻想と定住の背景
- 第21回 第二十章 日本の人種・民族差別と人権Ⅲ 戦争と平和と人権
- 第22回 第二十一章 「障害」者・高齢者の人権と社会福祉
- 第23回 第二十二章 病・医療と人権Ⅰ ハンセン病と人権
- 第24回 第二十三章 病・医療と人権Ⅱ 近代医学の前後と人権
- 第25回 第二十四章 病・医療と人権Ⅲ 伝染病の文化史と人権
- 第26回 第二十五章 病・医療と人権Ⅳ 衛生・防疫の光と影
- 第27回 第二十六章 病・医療と人権Ⅴ エイズ・肝炎、薬物依存と人権
- 第28回 第二十七章 人権教育の実践・展開Ⅰ
- 第29回 第二十八章 人権教育の実践・展開Ⅱ
- 第30回 まとめ。テスト

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 40% 出席 10%
レポートは、二回（春期・秋期）提出させる。秋期の二回目のレポートは、授業案・教材案であり、模擬授業・発表とも結びつけ、評価点は高くする。最終講義時に、設問形式のテストを実施する。受講カードの感想・意見も出席評価の参考にする。受講態度は重視する。配慮すべき事由のない、欠席・大幅な遅刻・途中の入退室・私語・居眠りは減点するか、当日の受講を認めない。

【教科書】

久保井規夫 わかりやすく絵で学ぶ 人権論 未刊
未刊なので、適宜一部を抜粋印刷して、講義時に、無料で配布する。

【参考文献】

「病の文化史」「食肉・狩漁の文化史」「大日本帝国の子どもたち」「紫煙・毒煙、大東亜幻影」柘植書房新社。「日本民衆と部落の歴史」「朝鮮と日本の歴史」「地下軍需工場と朝鮮人強制連行」「日本の侵略戦争とアジアの子ども」「朝鮮と日本の歴史光と影」「教科書から消せない真実」「消され歪められた歴史教科書」「江戸時代の被差別民衆」「近代の差別と日本民衆の歴史」「戦争と差別と日本民衆の歴史」明石書店。「養護学校義務化と障害児」「隔離の壁を倒せ」障害児権利保障協議会。いずれも、久保井規夫著作。購入時には、著者が用意できる。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
人権教育論 02 <秋集>	
寺 木 伸 明	4単位

【講義概要】

本講義では、まず人権教育とは何か、またなぜ必要か、を説明する。続いて世界と日本における人権問題の歴史と現状について視聴覚教材を活用しながら理解を深めていく。さらに同和教育の成果を踏まえながら人権教育の歴史、人権教育の方法、人権教育の実際の進め方などについて学習する。その際、中学校および高校で人権教育に積極的に取り組んでいる教員をゲスト講師として招聘し、その体験を語っていただく予定である。授業の形態としては、できるだけ参加型学習を取り入れ、学期の後半には、受講生による人権教育の模擬授業を実施する。

【学習目標】

人権教育・同和教育の必要性を理解し、かつ人権問題の歴史と現状をふまえて学校教育のなかで実際に人権教育・同和教育をどのように進めていくべきかを学習し、そのスキルを習得する。

【講義計画】

- 第1回 本講義の到達目標・テーマ・授業の概要・授業計画・評価の方法について説明
- 第2回 人権の概念と人権教育・同和教育の概要
- 第3回 人権教育・同和教育の必要性についてのグループでの話し合いと説明
- 第4回 世界における人権拡張の歴史
- 第5回 日本における人権拡張の歴史
- 第6回 世界の人権問題①——インド・カースト差別の歴史と現状
- 第7回 世界の人権問題②——人種差別等の歴史と現状
- 第8回 日本の人権問題①——部落差別の実態（映像を通して）、グループでの話し合い
- 第9回 日本の人権問題②——部落差別の歴史
- 第10回 日本の人権問題③——在日韓国・朝鮮人差別の歴史と現状
- 第11回 人権教育の歴史①——世界における人権教育の歴史
- 第12回 人権教育の歴史②——日本における同和教育の歴史（戦前）
- 第13回 人権教育の歴史③——日本における同和教育の歴史（戦後）
- 第14回 人権教育の進め方①——人権概念と人権の重要性、日本国憲法と人権について
- 第15回 人権教育の進め方②——自らの課題としての人権問題の解決について、グループでの話し合い
- 第16回 人権教育の進め方③——部落問題学習（前近代の部落の歴史）指導の実際
- 第17回 人権教育の進め方④——部落問題学習（近現代の部落の歴史）指導の実際
- 第18回 人権教育の進め方⑤——在日韓国・朝鮮人問題学習の実際
- 第19回 中学校における人権教育の実際（ゲスト講師）
- 第20回 高校における人権教育の実際（ゲスト講師）
- 第21回 受講生による模擬授業①（グループ1・2）
- 第22回 受講生による模擬授業②（グループ3・4）
- 第23回 受講生による模擬授業③（グループ5・6）
- 第24回 受講生による模擬授業④（グループ7・8）
- 第25回 受講生による模擬授業⑤（グループ9・10）
- 第26回 受講生による模擬授業の反省と、課題グループでの話し合い
- 第27回 国連を中心とした世界の人権教育の流れ
- 第28回 人権教育・同和教育の課題と展望
- 第29回 講義のまとめ
- 第30回 定期試験

【成績評価の方法】

評価は、授業と自己学習を通してどれだけ人権教育の内容と方法について理解できたか、を基本的な観点とする。学期末に実施する筆記試験の点数を基本に、毎回書かせ提出させる感想カードの内容（これを出席点とする）を加味して総合的に評価する。

【参考文献】

- 参考書・参考資料等
- 上田正昭編『国際化のなかの人権問題』明石書店
- 秋定嘉和編『人権の歴史—同和教育指導の手引』山川出版社
- 中野陸夫編『同和教育への招待』解放出版社
- 久保井則夫『近代の差別と日本民衆の歴史』明石書店

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
人工市場論 <秋集>	
谷 口 和 久	4単位

【講義概要】

市場の存在とそのメカニズムは、経済学研究の重要なテーマのひとつであるが、従来の伝統的な経済学では、市場の存在を所与して扱うことがおおく、「なぜ市場が存在するのか」「どのようにして市場が誕生したのか」という問題は、そもそも問題として設定されることが少ない。また、そのメカニズムに関して、アドホックな代表的需要関数や供給関数の存在を仮定して議論はなされるものの、市場参加者の意思決定にまで深く立ち入った議論はなされることはまれである。しかし、コンピュータの利用が簡便にできるようになり、市場を限定的な知識しか持たない経済主体が多数集まる制度としてとらえ、生身の人間や具体的な特性を持ったコンピュータ・プログラムマシンが参加する場を構築した上で、取引のシミュレーションを行い、その結果を分析することが可能になってきた。既に自然科学の分野では、自然界の人工模型を多数考案し研究に資しているが、経済学においても、社会における自発的秩序（＝市場）を、みずから設計した模型（＝人工市場）によって研究する技術を手に入れたといえよう。

本講義では、人工市場研究の優れたテストベッドとして、開発から既に10年以上経過したU-Martシステムを利用する。近年では、インターネットを介したいわゆる「ネット証券」が盛んになり、証券会社が顧客獲得のために様々な人工の市場を提供するなど一般社会からの興味も引いている。だが、U-Martシステムは、ヒューマンとコンピュータ・プログラムマシンが同時に参加できるうえに、実験結果をトレースできる等、研究のみならず教育のツールとしても極めて優れたものである。なお、U-Martプロジェクトについては、<<http://www.u-mart.org/html/index-j>>を参照のこと。

【学習目標】

先物市場・金融市場の仕組みや市場そのものの働きを理解する。また、トレーダーとして実験に参加することで、取引戦略を身につけ、先物取引の仕組みを実践的に理解する。さらに、実験結果を分析することで、数値分析の技術を身につける。従来の講義とは異なる参加型の授業であるので、そのつもりで受講されたい。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 市場について(1)
- 第3回 市場について(2)
- 第4回 人工市場の理論的背景(1)
- 第5回 人工市場の理論的背景(2)
- 第6回 金融市場と先物市場(1)
- 第7回 金融市場と先物市場(2)
- 第8回 金融市場と先物市場(3)
- 第9回 取引戦略(1)
- 第10回 取引戦略(2)
- 第11回 取引戦略(3)
- 第12回 マーケットシミュレーターの使い方
- 第13回 シミュレータの実習(1)
- 第14回 シミュレータの実習(2)
- 第15回 シミュレータの実習(3)
- 第16回 板よせによるU-Mart実験(1)
- 第17回 板よせによる実験結果分析(1)
- 第18回 板よせによるU-Mart実験(2)
- 第19回 板よせによる実験結果分析(2)
- 第20回 板よせによるU-Mart実験(3)
- 第21回 板よせによる実験結果分析(3)
- 第22回 エージェントのプログラミング(1)
- 第23回 エージェントのプログラミング(2)
- 第24回 エージェントのプログラミング(3)
- 第25回 ザラバによるU-Mart実験(1)
- 第26回 ザラバによる実験結果分析(1)
- 第27回 ザラバによるU-Mart実験(2)
- 第28回 ザラバによる実験結果分析(2)

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%
講義への積極的な参加と指定されたレポートの提出を重視します。

【教科書】

塩沢由典、他 人工市場で学ぶマーケットメカニズム - U-Mart経済

【参考文献】

『人工市場で学ぶマーケットメカニズム - U-Mart工学編 - 』、共立出版
 進化経済学会編、『進化経済学ハンドブック』、共立出版、2006

科目名	クラス	講義区分
心理学	01	<通期>
心理学	02	<通期>
加納真美	4単位	

【講義概要】

『心理学』を学びたいと考えている人に、心理学とはどのような学問なのかを理解してもらうことを目標とする。そのため、心理学全体の統合的な見取り図を示し、心理学がどのような日常の問題を、どのように明らかにしてきたかを考察していきたい。この講義では、特に進化の過程にある人間のしくみに関する解明と社会の中での人間という観点から、人間の発達と行動に関する解明を心がけたい。

【学習目標】

心理学を通して、人の行動への理解を深めること。

【講義計画】

- 第1回 心理学史と測定の仕方
- 第2回 1-1 心と脳
- 第3回 1-2 心と脳
- 第4回 2-1 知覚のプロセス
- 第5回 2-2 知覚のプロセス
- 第6回 3 動機づけ
- 第7回 4-1 情動・感情
- 第8回 4-2 情動・感情
- 第9回 5-1 行動の獲得と変容 (学習)
- 第10回 5-2 行動の獲得と変容 (学習)
- 第11回 6-1 成長と変化 (発達)
- 第12回 6-2 成長と変化 (発達)
- 第13回 6-3 成長と変化 (発達)
- 第14回 6-4 成長と変化 (発達)
- 第15回 7-1 パーソナリティ
- 第16回 7-2 パーソナリティ
- 第17回 8 自己意識
- 第18回 9 心の構造
- 第19回 10-1 心の健康と適応
- 第20回 10-2 心の健康と適応
- 第21回 11 対人認知
- 第22回 12 コミュニケーション
- 第23回 13 対人関係の発展
- 第24回 14-1 集団と人間 (状況の力)
- 第25回 14-2 集団と人間 (状況の力)
- 第26回 15 住みやすい社会を築く (援助行動)
- 第27回 16-1 文化と心 (日本人らしさ、比較文化)
- 第28回 16-2 文化と心 (日本人らしさ、比較文化)

【成績評価の方法】

試験 95% 出席 5%
 期末試験の得点を重視する。

【教科書】

大坊郁夫編著 わたし そして われわれ ミレニアムバージョン
 北大路書房

【参考文献】

- ・長谷川寿一・東條正城・丹野義彦著、『はじめて出会う心理学』有斐閣アルマ、
- ・ジョージ・バターワース他著 村井潤一監訳、『発達心理学の基本を学ぶ』、ミネルヴァ書房、1997年
- ・尾見康博・伊藤哲司編著、『心理学におけるフィールド研究の現場』、北大路書房、2001年
- ・菊池 聡・谷口高士・宮元博章編著、『不思議現象 なぜ信じるのか、こころの科学入門』、北大路書房 1995年

【備考】

私語厳禁、迷惑行為を行なった場合、退出をお願いします。
 授業途中の自分勝手な入退出は、あらかじめ理由を申し出て下さい。

【SW生】は03・04クラスのみ履修可

科目名	クラス	講義区分
心理学	03 <通期>	
心理学	04 <通期>	
和知 富士子	4 単位	

【講義概要】

わが国においては、社会福祉の実践分野に多くの心理学者が働いているにもかかわらず、これらの人々を社会福祉の領域に積極的に包含していくことができず、社会福祉学は、社会科学系統の人々から学問構築が始められて、実践科学としての心理学の関与が停滞してきた。しかしながら、最近、利用者のニーズが多様化する福祉現場の状況から、心理学的援助技術の導入を求める機運が急速に高まってきている。優れたケアの理論的根拠としての心理学理論が求められてきている。

【学習目標】

1. 心理学の概要を理解させる。
2. 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
3. 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
4. 心理的援助技法の概要について理解させる。
5. 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

【講義計画】

第1回 人間の心理学的理解
社会福祉士における心理学的援助

- 第2回 心理学とは何か
第3回 心理学の歴史と領域
第4回 人間の心理学的理解 1. 動機付け
第5回 2. 感情
第6回 3. 認知
第7回 4. 学習
第8回 5. 知能
第9回 6. 人格 (パーソナリティ)
第10回 7. 適応
第11回 8. 社会と人間
第12回 人間の成長。発達の心理 1. 発達の概念と主要な理論
第13回 2. 発達段階と生涯発達
第14回 3. 発達課題
第15回 4. 高齢期の心理
第16回 障害の心理的理解 1. 発達障害の概要
第17回 2. 発達障害への心理的援助
第18回 3. 知的障害
第19回 4. 情緒障害
第20回 5. 自閉症と学習障害
第21回 6. 精神障害
第22回 7. 身体障害
第23回 さまざまな心理学的援助 1. 心理測定と診断
第24回 2. 心理療法
第25回 3. カウンセリング
第26回 4. 家族療法
第27回 5. 行動療法
第28回 6. 遊戯療法 (プレイセラピー)
第29回 7. 精神分析
第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 10% 出席 30%

【教科書】

福祉養成講座編集委員会 新版 社会福祉士養成講座10 「心理学」中央放棄

【備考】

【SW生】は03・04クラスのみ履修可

科目名	クラス	講義区分
心理学 05 <春集>		
冷水 啓子	4 単位	

【講義概要】

これから心理学を学ぼうとする人たちは、「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているのであろうか。近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」、「深層心理学」、「臨床心理学」、「カウンセリング」といった類のものが、すなわち「心理学」である（それら以外は、たとえ人間の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という固定観念にとらわれている人が多いのではないか。もちろん、それらは「心理学」のなかで重要な分野として取り扱われているが、「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の研究領域はそれだけではなく、きわめて幅広く学際的である。

私たちの日常的活動を例に考えてみよう。私たちは、周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら日常生活を円滑に営んでいる。しかし、普段何気なく行っている、見る、聞く、感じる、考える、覚える、理解する、判断する、伝達するといった活動も、実に複雑な心のはたらきによるものであることがわかっている。このような人間における基本的な情報処理活動について研究する「認知心理学」というのも「心理学」の一分野である。

そこで、この講義では、近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観し、体系的に心理学を学ぶことを目指す。

【学習目標】

近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観しつつ、科学としての心理学理論を学ぶ。そして、人の心のはたらきについて総合的に理解することによって、客観的・批判的なものの見方を習得する。

【講義計画】

- 第1回 授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
第2回 心理学とは何か
第3回 心理学研究法：客観的に人の心をとらえる方法
第4回 感覚と知覚(1)：そのしくみとはたらき
第5回 感覚と知覚(2)：現実の世界と錯覚
第6回 感覚と知覚(3)：見えの世界
第7回 記憶(1)：そのしくみとはたらき
第8回 記憶(2)：日常の記憶、目撃者の証言
第9回 記憶(3)：記憶の不思議
第10回 学習(1)：学習の成立と応用
第11回 学習(2)：日常生活と学習
第12回 イメージ(1)：そのしくみとはたらき
第13回 イメージ(2)：心的イメージの世界
第14回 イメージ(3)：イメージ能力とイメージ・トレーニング
第15回 注意と認知(1)：そのしくみとはたらき
第16回 注意と認知(2)：注意とヒューマンエラー
第17回 思考と言語(1)：問題を解くということ
第18回 思考と言語(2)：「ことば」とコミュニケーション
第19回 思考と言語(3)：手話の世界
第20回 動機づけと情動(1)：人はなぜ行動を起こすか
第21回 動機づけと情動(2)：情動のはたらきと脳
第22回 脳と心(1)：心の生物学的基礎
第23回 脳と心(2)：脳の損傷と心のはたらき
第24回 性格(1)：性格の種類と特性
第25回 性格(2)：性格テスト
第26回 嘘とだましの心理学：人はなぜだまされるのか
第27回 まとめ
第28回 定期試験

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じて簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。学期末には試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

テキストは使用しないが、授業時や参考文献欄などで紹介する参考書を積極的に読み、予習・復習の際に活用すること。また、授業に関連する補足資料は、スライド(パワーポイント)、インターネット

ト、ビデオ (DVD)、印刷物などを通じて提供する。

【参考文献】

- ・梅本堯夫・大山 正・岡本浩一 (編)『心理学—心のはたらきを知る—』(サイエンス社)
- ・大村彰道 (編)『教育心理学 I—発達と学習指導の心理学—』(東京大学出版会)
- ・金児曉嗣 (編)『サイコロジー事始め』(有斐閣)
- ・長谷川寿一・東條正城・丹野義彦 (著)『はじめて出会う心理学 改訂版』(有斐閣アルマ)
- ・福祉士養成講座編集委員会 (編)『社会福祉士養成講座10 心理学』(中央法規)
- ・中島義明 (編)『メディアに学ぶ心理学』(有斐閣)

【備考】

【SW生】は03・04クラスのみ履修可

科目名 クラス 講義区分

スピリチュアルケア <春集>

伊藤 高章

4単位

【講義概要】

臨床スピリチュアルケアについての概説。
スピリチュアリティ理解の理論として「エニアグラム」を用いる。

【学習目標】

現代社会の新しいケア領域であるスピリチュアルケアについて、その必要性、構造、隣接領域との関係、限界などを理解する。また、その専門職養成に関わる諸問題についても、事例等を通して学ぶ。講義および学生による参考書購読によって目標を達成する。

【講義計画】

- 第1回 導入
- 第2回 エニアグラム(1)
- 第3回 スピリチュアルケアとスピリチュアリティ
- 第4回 エニアグラム(2)
- 第5回 社会構成論とスピリチュアルケア
- 第6回 エニアグラム(3)
- 第7回 深層心理学とスピリチュアルケア
- 第8回 エニアグラム(4)
- 第9回 人間類型論とスピリチュアルケア
- 第10回 エニアグラム(5)
- 第11回 キリスト教とスピリチュアルケア
- 第12回 エニアグラム(6)
- 第13回 仏教とスピリチュアルケア
- 第14回 エニアグラム(7)
- 第15回 日本文化とスピリチュアルケア
- 第16回 エニアグラム(8)
- 第17回 教育とスピリチュアルケア
- 第18回 エニアグラム(9)
- 第19回 医療現場におけるスピリチュアルケア
- 第20回 エニアグラム(10)
- 第21回 福祉現場におけるスピリチュアルケア
- 第22回 エニアグラム(11)
- 第23回 事故・災害におけるスピリチュアルケア
- 第24回 エニアグラム(12)
- 第25回 スピリチュアルケア専門職養成
- 第26回 エニアグラム(13)
- 第27回 専門職の評価
- 第28回 専門職のケア
- 第29回 質疑
- 第30回 総合ディスカッション

【成績評価の方法】

試験 25% レポート 75%
ただし、出席回数が(欠席レポートによる make up 換算後)24回に達しない者は、成績評価対象とならない。

【教科書】

窪寺俊之 他 続・スピリチュアルケアを語る 関西学院大学出版局

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
スペイン語 I a 01 <春>	
小林 暁子	1 単位

【講義概要】

スペイン語は、スペイン、ラテンアメリカ諸国、アメリカ合衆国など多くの国々で使われる国際的な言語である。スペイン語を学ぶことは、‘言語’そのものだけでなく、ラテンの文化や歴史、そして多くの人々と触れ合える‘きっかけ’となる。本講義では、文法事項のみならず、音楽や映像なども用いて、より多くのスペイン語圏の文化を紹介していくので、受講者は、‘自分が興味を持てる分野’をいち早く見つけて欲しい。そのことが、学習をより一層楽しくさせ、スペイン語上達への近道にもなり得る。

【学習目標】

本講義では、「基礎的な文法知識を習得しながら、使えるスペイン語力を身につける」ことを目標とする。そのために、授業では数多くの会話をしながら、より多くの表現に触れ、「聞く・話す・読む・書く」すべての面において着実に基礎を固めていく。

【講義計画】

- 第1回 スペイン語の文字と発音/自己紹介と挨拶
- 第2回 名詞の性と冠詞
- 第3回 名詞の性と形容詞
- 第4回 お願いします (por favor) の表現
- 第5回 スペイン語のbe動詞① (ser動詞)
- 第6回 スペイン語のbe動詞② (estar動詞)
- 第7回 ～があります (hay) の表現
- 第8回 指示代名詞、指示形容詞
- 第9回 時間の表現、数の表現
- 第10回 現在形規則活用 (-AR動詞)
- 第11回 現在形規則活用 (-ER動詞/-IR動詞)
- 第12回 現在形不規則活用
- 第13回 現在形不規則活用
- 第14回 総復習

【成績評価の方法】

出席 60%
出席60%+平常点40% (=授業内で行う課題、小テスト、レポート、授業態度等の総合評価)

【教科書】

阿由葉 恵理子 スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク
※ 講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典(西-和・和-西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい)を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】

- 『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』高垣 敏博 ほか編 小学館
- 『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社
- 『CD付 やさしいスペイン語文法』大岩 功 著 三修社
- 『ニューエクスプレス スペイン語 (CD付)』福寛 教隆 著 白水社

科目名 クラス 講義区分	
スペイン語 I a 02 <春>	
小林 暁子	1 単位

【講義概要】

スペイン語は、スペイン、ラテンアメリカ諸国、アメリカ合衆国など多くの国々で使われる国際的な言語である。スペイン語を学ぶことは、‘言語’そのものだけでなく、ラテンの文化や歴史、そして多くの人々と触れ合える‘きっかけ’となる。本講義では、文法事項のみならず、音楽や映像なども用いて、より多くのスペイン語圏の文化を紹介していくので、受講者は、‘自分が興味を持てる分野’をいち早く見つけて欲しい。そのことが、学習をより一層楽しくさせ、スペイン語上達への近道にもなり得る。

【学習目標】

本講義では、「基礎的な文法知識を習得しながら、使えるスペイン語力を身につける」ことを目標とする。そのために、授業では数多くの会話をしながら、より多くの表現に触れ、「聞く・話す・読む・書く」すべての面において着実に基礎を固めていく。

【講義計画】

- 第1回 スペイン語の文字と発音/自己紹介と挨拶
- 第2回 名詞の性と冠詞
- 第3回 名詞の性と形容詞
- 第4回 お願いします (por favor) の表現
- 第5回 スペイン語のbe動詞① (ser動詞)
- 第6回 スペイン語のbe動詞② (estar動詞)
- 第7回 ～があります (hay) の表現
- 第8回 指示代名詞、指示形容詞
- 第9回 時間の表現、数の表現
- 第10回 現在形規則活用 (-AR動詞)
- 第11回 現在形規則活用 (-ER動詞/-IR動詞)
- 第12回 現在形不規則活用
- 第13回 現在形不規則活用
- 第14回 総復習

【成績評価の方法】

出席 60%
出席60%+平常点40% (=授業内で行う課題、小テスト、レポート、授業態度等の総合評価)

【教科書】

阿由葉 恵理子 スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク
※ 講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典(西-和・和-西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい)を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】

- 『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』高垣 敏博 ほか編 小学館
- 『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社
- 『CD付 やさしいスペイン語文法』大岩 功 著 三修社
- 『ニューエクスプレス スペイン語 (CD付)』福寛 教隆 著 白水社

科目名 クラス 講義区分

スペイン語 I b 01 <春>
スペイン語 I b 02 <春>

浅井 りり子

1単位

【講義概要】

英語に次いで世界で数多い国々で使用されているスペイン語を学ぶことにより、スペイン語を話す国々の文化などにも触れ、異文化理解を深めるとともに、幅広い視野をもった国際人を育てる。視聴覚教材も活用し、日常会話から時事問題まで幅広い話題を取り上げ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。スペイン語の基礎をしっかりと学びながら、初歩的な会話表現を口頭で積極的に反復練習し、実際役立つ簡単な表現など、慣れ親しみ楽しく進めていく。

【学習目標】

初歩的な会話や挨拶、自己紹介ができるよう会話表現を口頭で積極的に反復練習し、実際役立つ簡単な表現など、慣れ親しみ積極的に参加して少しでもコミュニケーションがとれるよう目指す。

【講義計画】

- 第1回 アルファベット、発音、母音・子音・音節・アクセント
- 第2回 名詞の性、名詞の数、冠詞、基数（0～10）
- 第3回 主格人称代名詞 直説法現在形・規則活用 疑問文と否定文
- 第4回 動詞ser 基数（11～20）
- 第5回 動詞estarの直説法現在形
- 第6回 hayの用法 形容詞 直説法現在形
- 第7回 1人称単数が不規則な動詞
- 第8回 目的格人称代名詞 前置詞a 前置詞と定冠詞 接続詞yとo
- 第9回 直説法現在形 語幹母音変化動詞
- 第10回 所有形容詞の前置形 前置詞格人称代名詞
- 第11回 直説法現在形 一般不規則動詞
- 第12回 基数（21～90）指示形容詞 指示代名詞
- 第13回 Gustar型の動詞 所有形容詞の後置形
- 第14回 副詞muyとmucho -menteの副詞
- 第15回 Gustar型のその他の動詞

【成績評価の方法】

平常点（会話や例文の完成度、文法の理解度、授業における積極性、反応度）と授業中に行う小テスト（筆記または口頭）を月に数回と出席点で受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

高橋 覚二 / 伊藤 ゆかり / スペイン語を学ぼうよ！ CD付 朝日出版社
教科書の他に講義には、辞書『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社、又は他のスペイン語小辞書（西一和・和一西）が一冊になっているものを必ず持参すること。

【参考文献】

細川幸夫『スペイン語速修15日』創拓社出版
『スペイン語の入門』瓜谷良平 著 白水社
『しっかり学ぶスペイン語』桜庭雅子 貫井一美 ベレ出版

科目名 クラス 講義区分

スペイン語 II a 01 <秋>

小林 暁子

1単位

【講義概要】

スペイン語は、スペイン、ラテンアメリカ諸国、アメリカ合衆国など多くの国々で使われる国際的な言語である。スペイン語を学ぶことは、「言語」そのものだけでなく、ラテンの文化や歴史、そして多くの人々と触れ合える「きっかけ」となる。本講義では、文法事項のみならず、音楽や映像なども用いて、より多くのスペイン語圏の文化を紹介していくので、受講者は、「自分が興味を持てる分野」をいち早く見つけて欲しい。そのことが、学習をより一層楽しくさせ、スペイン語上達への近道にもなり得る。

【学習目標】

本講義では、「基礎的な文法知識を習得しながら、使えるスペイン語力を身につける」ことを目標とする。そのために、授業では数多くの会話文を用いながら、より多くの表現に触れ、「聞く・話す・読む・書く」すべての面において着実に基礎を固めていく。

【講義計画】

- 第1回 基本動詞活用の復習
- 第2回 目的語の人称代名詞（直接目的語）
- 第3回 目的語の人称代名詞（間接目的語）
- 第4回 「～が欲しい」の応用表現（動詞Querer）
- 第5回 「～を持っている」の応用表現（動詞Tener）
- 第6回 「～が好きです」の表現（動詞gustar）
- 第7回 前置詞/気候の表現
- 第8回 疑問詞応用
- 第9回 再帰動詞
- 第10回 過去の表現（点過去）
- 第11回 過去の表現（線過去）
- 第12回 過去の表現応用
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習

【成績評価の方法】

出席 60%
出席60%+平常点40%（＝授業内で行う課題、小テスト、レポート、授業態度等の総合評価）

【教科書】

阿由葉 恵理子 スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク
※ 講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典（西-和・和-西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい）を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】

『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』高垣 敏博 ほか編 小学館
『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社
『CD付 やさしいスペイン語文法』大岩 功 著 三修社
『ニューエクスプレス スペイン語 (CD付)』福寫 教隆 著 白水社

さ
行

科目名	クラス	講義区分
スペイン語Ⅱ a 02 <秋>		
小林 暁子	1単位	

【講義概要】

スペイン語は、スペイン、ラテンアメリカ諸国、アメリカ合衆国など多くの国々で使われる国際的な言語である。スペイン語を学ぶことは、‘言語’そのものだけでなく、ラテンの文化や歴史、そして多くの人々と触れ合える‘きっかけ’となる。本講義では、文法事項のみならず、音楽や映像なども用いて、より多くのスペイン語圏の文化を紹介していくので、受講者は、‘自分が興味を持てる分野’をいち早く見つけて欲しい。そのことが、学習をより一層楽しくさせ、スペイン語上達への近道にもなり得る。

【学習目標】

本講義では、「基礎的な文法知識を習得しながら、使えるスペイン語力を身につける」ことを目標とする。そのために、授業では数多くの会話文を用いながら、より多くの表現に触れ、「聞く・話す・読む・書く」すべての面において着実に基礎を固めていく。

【講義計画】

- 第1回 基本動詞活用の復習
- 第2回 目的語の人称代名詞（直接目的語）
- 第3回 目的語の人称代名詞（間接目的語）
- 第4回 「～が欲しい」の応用表現（動詞Querer）
- 第5回 「～を持っている」の応用表現（動詞Tener）
- 第6回 「～が好きです」の表現（動詞gustar）
- 第7回 前置詞/気候の表現
- 第8回 疑問詞応用
- 第9回 再帰動詞
- 第10回 過去の表現（点過去）
- 第11回 過去の表現（線過去）
- 第12回 過去の表現応用
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習

【成績評価の方法】

出席 60%
出席60%+平常点40%（=授業内で行う課題、小テスト、レポート、授業態度等の総合評価）

【教科書】

阿由葉 恵理子 スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク
※ 講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典（西-和・和-西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい）を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】

『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』高垣 敏博 ほか編 小学館
『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社
『CD付 やさしいスペイン語文法』大岩 功 著 三修社
『ニューエクスプレス スペイン語 (CD付)』福寛 教隆 著 白水社

科目名	クラス	講義区分
スペイン語Ⅱ b 01 <秋> スペイン語Ⅱ b 02 <秋>		
浅井 るり子	1単位	

【講義概要】

スペイン語はスペインだけではなくラテンアメリカを中心とする多くの国々やアメリカ合衆国で話されている国際語です。話す人々は約4億とみなされて、新旧大陸にまたがる自然、地理、人種、政治的にも文化的にも極めて重要な言葉の扉を開く気持ちを育て、幅広い視野をもった国際人を育てる。基本的語彙と初級文法の習得を目標としながら初歩的な会話から少し日常的な会話を積極的に反復練習し、文法が話す力と聞く力と平行して向上するように徹底した反復練習を行う。積極的に授業に参加して、少しでもマスターできるよう努力してほしい。

【学習目標】

さまざまな動詞を覚えて、活用を反復練習し使いこなせるよう学習する。会話も少し幅広く観光や買い物、レストランなどでの状況に対応できるよう目指す。

【講義計画】

- 第1回 直説法現在形 語幹母音変化動詞
- 第2回 所有形容詞の前置形 前置詞格人称代名詞
- 第3回 直説法現在形 不規則動詞
- 第4回 時刻の表現、天候、tener 動詞慣用表現
- 第5回 疑問詞 序数（1番目～10番目）
- 第6回 Gustar型の動詞とその他動詞 所有形容詞の後置形
- 第7回 無人称文 特定の主語をとらない表現 不定詞
- 第8回 再帰動詞の直説法現在形
- 第9回 過去分詞 直説法現在完了形 受動態
- 第10回 不定語と否定語 基数（100～100万）
- 第11回 現在分詞 単人称動詞
- 第12回 直接法点過去形 規則活用 知覚・使役・放任の表現
- 第13回 関係詞 直接法点過去形 不規則活用
- 第14回 形容詞・副詞の比較 日付・曜日の表し方
- 第15回 直説法線過去形 ・規則活用・不規則活用

【成績評価の方法】

平常点（会話や例文の完成度、文法の理解度、授業における積極性、反応度）と授業中に行う小テスト（筆記または口頭）を月に数回と出席点で受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

高橋 覚二 / 伊藤 ゆかり / スペイン語を学ぼうよ！ CD付 朝日出版社
教科書の他に講義には、辞書『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社、又は他のスペイン語小辞書（西一和・和一西）が一冊になっているものを必ず持参すること。

【参考文献】

細川幸夫『スペイン語速修15日』創拓社出版
『スペイン語の入門』瓜谷良平 著 白水社
『しっかり学ぶスペイン語』桜庭雅子 貫井一美 ベレ出版

科目名 クラス 講義区分	
スペイン語Ⅲ a 01 <春>	
小林 暁子	1単位

【講義概要】

いよいよ初級から中級へさしかかる段階である。スペイン語の上達のために重要なのは、まず基礎をしっかり固めた上で、更なる文法事項を身につけることである。そのために本講義では、既に学んだ内容の反復練習と、新たな文法事項の習得を同時進行で行っていく。更に、実際の生活や旅行の際に使える表現を、視聴覚教材の活用やロールプレイングを通して数多く扱っていくので、受講者は積極的な姿勢で参加して欲しい。また、自分自身で、わからない単語を辞書で調べたり、正しい動詞の活用を表で確認したりと、日々の地道な努力を続けることが上達には不可欠であることを忘れないこと。

【学習目標】

本講義では、「基本文法の理解を更に深めながら、学んだ内容を応用し、自分自身で様々なことをスペイン語で表現できるような実践力、コミュニケーション力を高める」ことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 過去形の復習
- 第2回 過去分詞と現在完了形
- 第3回 現在分詞と現在進行形
- 第4回 未来形
- 第5回 比較の表現
- 第6回 無人称表現
- 第7回 関係代名詞
- 第8回 関係副詞
- 第9回 命令の表現
- 第10回 接続法
- 第11回 接続法
- 第12回 接続法
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習

【成績評価の方法】

出席 60%
出席60%+平常点40% (=授業内で行う課題、小テスト、レポート、授業態度等の総合評価)

【教科書】

阿由葉 恵理子 スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク
※ 講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典(西-和・和-西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい)を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】

- 『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』高垣 敏博 ほか編 小学館
- 『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社
- 『CD付 やさしいスペイン語文法』大岩 功 著 三修社
- 『ニューエクスプレス スペイン語 (CD付)』福寫 教隆 著 白水社
- 『スペイン語レッスン初級2』阿由葉 恵理子 著 スリーエーネットワーク

科目名 クラス 講義区分	
スペイン語Ⅲ a 02 <春>	
小林 暁子	1単位

【講義概要】

いよいよ初級から中級へさしかかる段階である。スペイン語の上達のために重要なのは、まず基礎をしっかり固めた上で、更なる文法事項を身につけることである。そのために本講義では、既に学んだ内容の反復練習と、新たな文法事項の習得を同時進行で行っていく。更に、実際の生活や旅行の際に使える表現を、視聴覚教材の活用やロールプレイングを通して数多く扱っていくので、受講者は積極的な姿勢で参加して欲しい。また、自分自身で、わからない単語を辞書で調べたり、正しい動詞の活用を表で確認したりと、日々の地道な努力を続けることが上達には不可欠であることを忘れないこと。

【学習目標】

本講義では、「基本文法の理解を更に深めながら、学んだ内容を応用し、自分自身で様々なことをスペイン語で表現できるような実践力、コミュニケーション力を高める」ことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 過去形の復習
- 第2回 過去分詞と現在完了形
- 第3回 現在分詞と現在進行形
- 第4回 未来形
- 第5回 比較の表現
- 第6回 無人称表現
- 第7回 関係代名詞
- 第8回 関係副詞
- 第9回 命令の表現
- 第10回 接続法
- 第11回 接続法
- 第12回 接続法
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習

【成績評価の方法】

出席 60%
出席60%+平常点40% (=授業内で行う課題、小テスト、レポート、授業態度等の総合評価)

【教科書】

阿由葉 恵理子 スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク
※ 講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典(西-和・和-西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい)を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】

- 『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』高垣 敏博 ほか編 小学館
- 『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社
- 『CD付 やさしいスペイン語文法』大岩 功 著 三修社
- 『ニューエクスプレス スペイン語 (CD付)』福寫 教隆 著 白水社
- 『スペイン語レッスン初級2』阿由葉 恵理子 著 スリーエーネットワーク

科目名	クラス	講義区分
スペイン語Ⅲb	01	<春>
スペイン語Ⅲb	02	<春>
浅井 りり子	1単位	

【講義概要】

スペイン語の基礎的な知識を応用して力を伸ばし、実践的にコミュニケーション出来るよう目指す。前年次に継続して基本的な文法を生かしながら、読解力、会話力、観光や国際交流に役立つ表現や知識、そして語彙数を伸ばす学習を進めていく。会話は積極的に反復練習し、文法が話す力と聞く力と平行して向上するように徹底した反復練習を行う。視聴覚教材を活用し国際的感覚や、視野を広める為に、スペインやラテンアメリカを中心に多くの国の生活習慣、文化や音楽などについても触れて、幅広く学習を進めていく。積極的に授業に参加してほしい。

【学習目標】

スペイン語の基礎的な知識を応用し、前年次に継続して基本的な文法を生かしながら、読解力、会話力、聴解力、そして語彙数を伸ばすよう目指す。

【講義計画】

- 第1回 スペイン語の生活習慣を紹介しながら、自己紹介、人を紹介する、日常会話、訪問先での対応。アルファベット、アクセント
- 第2回 喫茶店などでの注文 名詞の性、名詞の数、冠詞
- 第3回 銀行での両替、お金の数え方や言い方 基数 (0~100万)
- 第4回 人や物を描写する 形容詞、基本的動詞ser
- 第5回 パーティでの対応、色んな祭りや行事。
- 第6回 レストランでの注文 直説法現在形 一般不規則動詞
- 第7回 試着と買い物 hayの用法 形容詞 Gustar型の動詞
- 第8回 ビデオ教材を利用してヒヤリング力を身につける。
- 第9回 音楽や歌手について勉強し、ヒヤリング力、読解力を身につける。
- 第10回 趣味や好みについて語る目的格人称代名詞 前置詞a 前置詞と定冠詞接続詞yとo
- 第11回 タクシー乗り場、や空港での会話、直説法現在形・規則活用 疑問文と否定文
- 第12回 曜日・日付け・時刻を述べる、スケジュールをスペイン語で述べる
- 第13回 人や物の状態を述べる 形容詞、基本的動詞estar
- 第14回 物がある場所を述べる、何があるか述べる 語彙、estar, haber動詞 前置詞a 前置詞と定冠詞 接続詞yとo
- 第15回 食生活、体調について述べる、薬局、病院にて 再帰動詞の直説法現在形

【成績評価の方法】

平常点(会話や例文の完成度、文法の理解度、授業における積極性、反応度)と授業中に行う小テスト(筆記または口頭)会話には積極的に参加、年に数回と出席点で受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

田村さと子 『¡Ánimo!』アニモCD付 白水社出版社
教科書の他に講義には、辞書『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社、又は他のスペイン語小辞書(西一和・和一西)が一冊になっているものを必ず持参すること。

【参考文献】

細川幸夫『スペイン語速修15日』創拓社出版
『スペイン語の入門』瓜谷良平 著 白水社
『スペイン語語彙練習長』Gide語彙研究班 編 朝日出版社

科目名	クラス	講義区分
スペイン語Ⅳa 01 <秋>		
小林 暁子	1単位	

【講義概要】

本講義では、習得した基本的事項を実際に活用していきけるよう、多様なアプローチで実践的な練習を行っていく。日常的に用いる会話は勿論のこと、ディクテーション、スピーチ、講読、作文等を取り入れることで、「聞く・話す・読む・書く」という総合的な能力を養っていく。受講者は、これまで努力して学んできた成果を、自分自身のスペイン語で大いに表現できるようになって欲しい。

【学習目標】

本講義では、「基本文法の理解を更に深めながら、学んだ内容を応用し、自分自身で様々なことをスペイン語で表現できるような実践力、コミュニケーション力を高める」ことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 文法事項復習
- 第2回 旅行基本会話/スペイン語講読
- 第3回 旅行基本会話/スペイン語講読
- 第4回 病院での表現/スペイン語講読
- 第5回 電話表現/スペイン語講読
- 第6回 料理/スペイン語講読
- 第7回 日本を観光案内/スペイン語講読
- 第8回 スペイン語作文(日記など)
- 第9回 スペイン語作文(手紙など)
- 第10回 スペイン語作文(物語など)
- 第11回 スピーチ練習
- 第12回 スピーチ練習
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習

【成績評価の方法】

出席 60%
出席60%+平常点40% (=授業内で行う課題、小テスト、レポート、授業態度等の総合評価)

【教科書】

阿由葉 恵理子 スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク

※ 講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典(西一和・和一西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい)を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】

『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』高垣 敏博 ほか編 小学館
『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社
『CD付 やさしいスペイン語文法』大岩 功 著 三修社
『ニューエクスプレス スペイン語(CD付)』福嶋 教隆 著 白水社
『スペイン語レッスン初級2』阿由葉 恵理子 著 スリーエーネットワーク

科目名	クラス	講義区分
スペイン語Ⅳ a 02 <秋>		
小林 暁子	1単位	

【講義概要】

本講義では、習得した基本的事項を実際に活用していきけるよう、多様なアプローチで実践的な練習を行っていく。日常的に用いる会話は勿論のこと、ディクテーション、スピーチ、講読、作文等を取り入れることで、「聞く・話す・読む・書く」という総合的な能力を養っていく。受講者は、これまで努力して学んできた成果を、自分自身のスペイン語で大いに表現できるようになって欲しい。

【学習目標】

本講義では、「基本文法の理解を更に深めながら、学んだ内容を応用し、自分自身で様々なことをスペイン語で表現できるような実践力、コミュニケーション力を高める」ことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 文法事項復習
- 第2回 旅行基本会話/スペイン語講読
- 第3回 旅行基本会話/スペイン語講読
- 第4回 病院での表現/スペイン語講読
- 第5回 電話表現/スペイン語講読
- 第6回 料理/スペイン語講読
- 第7回 日本を観光案内/スペイン語講読
- 第8回 スペイン語作文(日記など)
- 第9回 スペイン語作文(手紙など)
- 第10回 スペイン語作文(物語など)
- 第11回 スピーチ練習
- 第12回 スピーチ練習
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習

【成績評価の方法】

出席 60%
出席60%+平常点40% (=授業内で行う課題、小テスト、レポート、授業態度等の総合評価)

【教科書】

阿由葉 恵理子 『スペイン語レッスン初級1 スリーエーネットワーク』
※ 講義には、上記テキストのほかに、スペイン語辞典(西-和・和-西が1冊にまとめられた小辞典が望ましい)を必ず持参すること。出版社等は特に指定しない。

【参考文献】

『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』高垣 敏博 ほか編 小学館
『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社
『CD付 やさしいスペイン語文法』大岩 功 著 三修社
『ニューエクスプレス スペイン語(CD付)』福嶋 教隆 著 白水社
『スペイン語レッスン初級2』阿由葉 恵理子 著 スリーエーネットワーク

科目名	クラス	講義区分
スペイン語Ⅳ b	01 <秋>	
スペイン語Ⅳ b	02 <秋>	
浅井 るり子	1単位	

【講義概要】

現在、スペイン語は21の国と地域で公用語とされており、スペイン語を話す人々は約4億とみなされていて、政治的にも文化的にも極めて重要な言葉のひとつです。基本的語彙と文法などの知識を応用して実践的に使えるスペイン語を目標としながら日常会話や、読解力、文化、観光、映画等についても紹介していく。国際交流に役立つ話す力、聞く力と平行して向上するように徹底した反復練習を行う。積極的に授業に参加して、少しでもマスターできるよう努力してほしい。

【学習目標】

基本的語彙と文法などの知識を応用して実践的に使えるスペイン語を目標としながら国際交流に役立つ会話力や、読解力、文化、観光、映画等についても少し意見が述べられるよう目指す。

【講義計画】

- 第1回 一日の日常生活を語る 再帰動詞の直説法現在形
- 第2回 現在までの経験について語る 直説法現在完了
- 第3回 過去の出来事を直接法点過去で会話する。
- 第4回 比較級を使用し、語彙を増やし文章作成する。
- 第5回 過去での出来事を直説法点過去と線過去で語る。
- 第6回 明日の計画について疑問文、肯定文、否定文。
- 第7回 春、夏、冬休みの計画や過ごし方、将来の展望を未来形で語る。
- 第8回 命令文を利用し、実践的に行いながら反復練習する。
- 第9回 依頼する・許可を求める・与える・助言する
- 第10回 手紙を書く。現在形、現在完了形、現在進行形
- 第11回 予定を述べる・天候について述べる。
- 第12回 自然現象について述べる・地理について述べる
- 第13回 意見を述べる・自分について述べる・感情を述べる。
- 第14回 人の一生を語る・思い出を語る、ビデオ鑑賞
- 第15回 日本を紹介(学習した知識を生かしショートスピーチなど)

【成績評価の方法】

平常点(会話や例文の完成度、文法の理解度、授業における積極性、反応度)と授業中に行う小テスト(筆記または口頭)会話には積極的に参加、年に数回と出席点で受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

田村さと子 『iÁnimo!』アニメCD付 白水社出版
教科書の他に講義には、辞書『スペイン語ミニ辞典』宮城 昇・宮本 博司 編 白水社、又は他のスペイン語小辞書(西一和・和一西)が一冊になっているものを必ず持参すること。

【参考文献】

細川幸夫『スペイン語速修15日』創拓社出版
『スペイン語の入門』瓜谷良平 著 白水社
『スペイン語語彙練習長』Gide語彙研究班 編 朝日出版社

科目名 クラス 講義区分	
生産管理論 <春集>	
信 夫 千佳子	4単位

【講義概要】

本講義では、現代の生産システムについて発展過程に沿って概説する。まず、戦後アメリカから導入された「大量生産システム」や「統計的品質管理」などを説明する。次に、トヨタ自動車が独自に開発したトヨタ生産システム、そのトヨタ生産システムが海外からは「リーン生産システム」と呼ばれて普及していった経緯、1990年代以降、電機・電子業界などを中心に普及した「セル生産システム」などについて概説する。トヨタ自動車、ソニー、NEC、KOA、前川製作所等の事例の紹介も行う。最後に、「ポスト・リーン（次世代）生産システム」と私たちの未来の生活について学生諸君と議論したい。

【学習目標】

本講義は、特に日本企業において優れた製品がどのように生み出され管理されているかについて基礎的な知識を修得することが目標である。日本企業は、自動車、家電製品や携帯電話など、世界的に高い評価を得ている製品を次々に生み出している。しかしながら、学生はそれらの生産システムについて直接接する機会は少ない。本講義では、教科書に準拠しながら、具体的な生産システムをパワーポイントやビデオなどで紹介する。製造関係はもとより、営業・販売、企画・開発、会計などの職種にも必要な経営管理の基礎知識である。

【講義計画】

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション 授業の進め方と受け方 |
| 第2回 | 生産とは 生産管理とは |
| 第3回 | テイラー・システムー標準化ー |
| 第4回 | フォード生産システムー標準化、専門化、単純化ー |
| 第5回 | 大量生産システムの特徴 |
| 第6回 | 統計的品質管理 |
| 第7回 | QCサークルと提案制度ーKAIZENー |
| 第8回 | トヨタ生産システムー多品種少量生産システムー |
| 第9回 | トヨタ生産システムの特徴ーJITと自動化ー |
| 第10回 | トヨタ生産システムの方策 |
| 第11回 | トヨタ生産システムからリーン生産システムへ |
| 第12回 | リーン生産システムの限界 |
| 第13回 | CIMーコンピュータ統合生産システムー |
| 第14回 | CIMの事例（ビデオ） |
| 第15回 | CIMとリーン生産システム |
| 第16回 | 中間試験またはレポート、小括 |
| 第17回 | セル生産システムの導入経緯ー1990年代以降の製造業界ー |
| 第18回 | セル生産システムの事例ーソニー、NEC、KOAなどー |
| 第19回 | 不確定性とセル生産システム |
| 第20回 | 小括ー日本の生産システムー |
| 第21回 | 海外の生産システムーアメリカー |
| 第22回 | 海外の生産システムードイツー |
| 第23回 | 海外の生産システムースウェーデンー |
| 第24回 | 海外の生産システムーイタリアー |
| 第25回 | ポスト・リーン生産システムー自律化の視点からー |
| 第26回 | ポスト・リーン生産システムー統合化の視点からー |
| 第27回 | ポスト・リーン生産システムー前川製作所の事例ー |
| 第28回 | ポスト・リーン生産システムーセル事業システムの構想 |
| 第29回 | 未来の生産システムと私たちの生活 |
| 第30回 | まとめ |

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 50%

授業に貢献する有意義な意見や質問を述べた学生は、別途加算する。（最大9%）

*6月に中間試験またはレポートを実施するので、その前に案内を掲示する。試験かレポートのいずれかは進捗状況や受講者の人数によって決定する。

*レポートは50%なので、必ず期限内に提出すること。（レポートの課題や期限は掲示する。）

【教科書】

信夫千佳子 ポスト・リーン生産システムの探究ー不確定性への企業適応ー 文眞堂

【参考文献】

随時紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
政治学 <春集>	
村 山 高 康	4単位

【講義概要】

政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容で進める。前半は、時代を近代に限定し、地域的には西欧の政治思想や学説を背景にして、国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は、近代西欧の歴史的背景をたどりつつ行うので、歴史への興味をもって受講されたい。後半は、大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を国際政治システムの形成と変遷、近代主権国家の変貌、民族紛争や環境問題、現代の政治思想、日本の行政機構や政策形成過程などを、多面的にとりあげて考察する。多くのテーマをとりあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズアップできるような講義を行う。前半と後半では講義スタイルは異なるが、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前半の講義を十分に咀嚼することが重要である。

【学習目標】

近代国家成立の歴史的背景を理解することで、日本を含む現代世界の政治の構造・思想・制度・国際政治史・現代的政治問題・などを、受講生が自主的に判断・分析することことを可能にすることが目標である。

【講義計画】

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | 政治学入門ー講義内容紹介ー |
| 第2回 | 近代国家の成立 |
| 第3回 | 西欧市民社会の出現 |
| 第4回 | ルネサンス |
| 第5回 | 宗教改革 |
| 第6回 | 絶対主義国家の構造 |
| 第7回 | 近代政治思想の形成 |
| 第8回 | 議会政治の発展 |
| 第9回 | 市民社会の発達 |
| 第10回 | ホブズ |
| 第11回 | ロック |
| 第12回 | 啓蒙思想家たちと市民革命 |
| 第13回 | 江戸近世の政治思想 |
| 第14回 | 明治の近代化と諸問題 |
| 第15回 | 国際政治システムの形成と変遷①：ヴェストファリア体制から第二次世界大戦まで |
| 第16回 | 国際政治システムの形成と変遷②：国連の設立から冷戦終結まで |
| 第17回 | 主権国家の変貌とヨーロッパ連合の成立 |
| 第18回 | 非国家アクターの登場 |
| 第19回 | 民族紛争 |
| 第20回 | テロリズム |
| 第21回 | 南北問題 |
| 第22回 | 環境問題 |
| 第23回 | 自由主義・社会主義・ファシズムなど、現代の思想潮流について |
| 第24回 | 日本の政治機構 |
| 第25回 | 日本の政策決定過程 |
| 第26回 | 日本の行政機構 |
| 第27回 | 現代日本政治の現状分析 |
| 第28回 | まとめ |

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

論述試験による評価

【参考文献】

講義の中で、随時指示する。

科目名	クラス	講義区分
政治学原論 <通期>		
捧	堅	二
		4単位

【講義概要】

政治学の基本的な理論について講義する。権力、支配、国家など重要なテーマを網羅する。しかし、皆にとって、わかりやすく、楽しい授業にしたいと思っています。

【学習目標】

できれば政治・支配・権力・国家などについて深く考えることができるように導きたい。しかし、最低限、政治学とはこういうものだということがわかって頂ければいいと思う。

【講義計画】

- 第1回 (1)はじめに
(学生の要望を聞いた上で、成績評価のやり方について具体的に決定。試験問題についての最初の告知も行う)
(2)政治学について
- 第2回 マキャヴェッリと『君主論』
- 第3回 『君主論』関連のVIDEO映像(アメリカのTV番組)の鑑賞
- 第4回 人間とは何か——宗教、思想。「生まれか、育ちか」。未開社会の人間。
- 第5回 人間と政治、社会と政治
- 第6回 権力とは何か(権力・支配・闘争)——マックス・ヴェーバー
- 第7回 職業政治家と政治的行為——ヴェーバー『職業としての政治』
- 第8回 政党政治関連する劇映画の鑑賞
- 第9回 (前回のつづき)
- 第10回 左翼と右翼
- 第11回 リベラルと保守(前回のつづき)
- 第12回 番外編(ここでは内容を秘す)
- 第13回 暴力と政治(1)——暗殺
- 第14回 未定だが劇映画(部分)の鑑賞(暗殺関連)
- 第15回 暴力と政治(2)——テロ(右翼、イスラム原理主義ほか)
- 第16回 暴力と政治(3)——クーデター、戦争、革命
- 第17回 陰謀と陰謀論(真珠湾攻撃、下山事件など)
- 第18回 ホブズと『リヴァイアサン』
- 第19回 国家の機能
- 第20回 国家と国家主義(ナショナリズム)と国民国家
- 第21回 TVドラマ『國語百年』(VIDEO)鑑賞
- 第22回 現代国家(1)——行政国家
- 第23回 現代国家(2)——福祉国家
- 第24回 「民主制」(democracy)と少数者支配
- 第25回 政党と議会
- 第26回 選挙と代表
- 第27回 人民投票制の民主制
- 第28回 日本における近代国家形成
- 第29回 天皇制における「顕教」「密教」「潜教」
- 第30回 空気の政治とは何か

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 50%
成績評価はできるだけ易しくしたいと思っている。しかし、Cは容易かも知れないが、Aは難しいという感じになると思うので、ご注意。

試験は1年の最後に1度だけ実施(問題は複数回事前に告知する)。

試験とレポートのパーセント比は、ここではとりあえず50/50にしたが、学生の希望に応じて、柔軟に変更するので、最初の授業には必ず出席すること。

出席回数と成績評価はまったく無関係とする。
(ただし、出席重視の評価を希望する学生があれば、個別に応じることができるかも知れないので、最初の講義にはかならず出席のこと)

【教科書】

使用しない

【参考文献】

安藤英治『マックス・ウェーバー』講談社学術文庫、2003年
牧野雅彦『共存のための技術 新版——政治学入門』大学教育出版、2008年
田畑稔『二一世紀入門』青木書店、1999年
マキャヴェリ『君主論』中央公論新社、2001年
ホブズ『リヴァイアサン』(1,2)岩波文庫、1992年
ヴェーバー『職業としての政治』岩波文庫、1980

科目名	クラス	講義区分
精神医学 <通期>		
岡	田	章
		4単位

【講義概要】

精神医学全般について、総論と各論に分け、前者では主に脳の解剖学的構造や精神症状について、後者では認知症から自閉症を中心とした広汎性発達障害まで個別の疾患について最新の知見に基づいて講義を行う。講義において理解を深めるためDVDやビデオを使用する予定である。

【学習目標】

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
- 3 精神医学の概念について理解させる。
- 4 精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。
- 5 代表的な精神障害について理解させる。
- 6 治療の概要について理解させる。
- 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

【講義計画】

- 第1回 精神医学の概念
1) 精神医学の概念
2) 精神医学の成因と分類
- 第2回 脳および神経の生理・解剖(1)
1) 形態的構造
2) 神経細胞
3) 神経膠細胞
4) 脳の発達
- 第3回 脳および神経の生理・解剖(2)
1) 形態的構造
2) 神経細胞
3) 神経膠細胞
4) 脳の発達
- 第4回 脳および神経の生理・解剖(3)
1) 形態的構造
2) 神経細胞
3) 神経膠細胞
4) 脳の発達
- 第5回 精神症状(1)
1) 精神症状
2) 状態像
3) 巣症状(神経心理学的症状)
- 第6回 精神症状(2)
1) 精神症状
2) 状態像
3) 巣症状(神経心理学的症状)
- 第7回 精神症状(3)
1) 精神症状
2) 状態像
3) 巣症状(神経心理学的症状)
- 第8回 精神医学的診断学(1)
1) 診断の手順と方法
2) 心理検査と身体的検査
- 第9回 精神医学的診断学(2)
1) 診断の手順と方法
2) 心理検査と身体的検査
- 第10回 精神医学的診断学(3)
1) 診断の手順と方法
2) 心理検査と身体的検査
- 第11回 精神医学的治療学(1)
1) 身体的療法
①薬物療法とその副作用
②電気ショック療法
2) 精神療法
3) 環境・社会療法
4) 精神科リハビリテーション
- 第12回 精神医学的治療学(2)
1) 身体的療法
①薬物療法とその副作用
②電気ショック療法
2) 精神療法
3) 環境・社会療法
4) 精神科リハビリテーション
- 第13回 精神医学的治療学(3)

さ
行

- 1) 身体的療法
①薬物療法とその副作用
②電気ショック療法
- 2) 精神療法
- 3) 環境・社会療法
- 4) 精神科リハビリテーション
- 第14回 精神医学的治療学(4)
- 1) 身体的療法
①薬物療法とその副作用
②電気ショック療法
- 2) 精神療法
- 3) 環境・社会療法
- 4) 精神科リハビリテーション
- 第15回 症状性を含む器質性精神障害(認知症を含む)(1)
- 1) アルツハイマー型認知症
- 2) ピック病
- 3) パーキンソン病
- 4) びまん性レビー小体病
- 5) ハッチントン舞踏病
- 6) 正常圧水頭症
- 7) 進行性核上麻痺
- 8) 脊髄小脳変性症
- 9) 脳血管性認知症
- 10) 脳炎
- 11) 進行麻痺
- 12) クロイツフェルト-ヤコブ病
- 13) 進行性エイズ認知症
- 14) 脳腫瘍
- 15) 外傷性脳障害
- 第16回 症状性を含む器質性精神障害(認知症を含む)(2)
- 1) アルツハイマー型認知症
- 2) ピック病
- 3) パーキンソン病
- 4) びまん性レビー小体病
- 5) ハッチントン舞踏病
- 6) 正常圧水頭症
- 7) 進行性核上麻痺
- 8) 脊髄小脳変性症
- 9) 脳血管性認知症
- 10) 脳炎
- 11) 進行麻痺
- 12) クロイツフェルト-ヤコブ病
- 13) 進行性エイズ認知症
- 14) 脳腫瘍
- 15) 外傷性脳障害
- 第17回 症状性を含む器質性精神障害(認知症を含む)(3)
- 1) アルツハイマー型認知症
- 2) ピック病
- 3) パーキンソン病
- 4) びまん性レビー小体病
- 5) ハッチントン舞踏病
- 6) 正常圧水頭症
- 7) 進行性核上麻痺
- 8) 脊髄小脳変性症
- 9) 脳血管性認知症
- 10) 脳炎
- 11) 進行麻痺
- 12) クロイツフェルト-ヤコブ病
- 13) 進行性エイズ認知症
- 14) 脳腫瘍
- 15) 外傷性脳障害
- 第18回 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害
- 第19回 気分(感情)障害
- 第20回 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(1)
- 第21回 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(2)
- 第22回 精神作用物質使用による精神および行動の障害
- 第23回 成人の人格および行動の障害
- 第24回 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- 第25回 てんかん
- 第26回 児童青年期の精神障害(1)
- 1) 児童青年期の精神障害の特徴
- 2) 精神遅滞
- 3) 心理的発達の障害
- 4) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の

- 障害
- 第27回 児童青年期の精神障害(2)
- 1) 児童青年期の精神障害の特徴
- 2) 精神遅滞
- 3) 心理的発達の障害
- 4) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
- 第28回 精神医学と社会
- 1) 精神科医療の歴史(患者処遇の歴史)
- 2) 精神医学の歴史
- 3) 地域精神医学

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 50%

前期：レポート

後期：試験

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

改訂 精神保健福祉士養成セミナー 精神医学 第1巻 へるす出版

ICD-10 精神および行動の障害 WHO編 医学書院

DSM-IV-TR 精神疾患の分類と手引き APA編 医学書院

精神病 笠原嘉編 岩波書店

現代児童青年精神医学 山崎晃資ら編 永井書店

科目名 クラス 講義区分	
精神科リハビリテーション学 <秋集>	
栄 セツコ	4単位

【学習目標】

- 1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
- 2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
- 3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
- 4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
- 5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

【講義計画】

- 第1回 1 精神科リハビリテーションの概念
- 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
- 2 精神科リハビリテーションの構成
- 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - (1) 病院リハビリテーション施設等
 - (2) 社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
 - (3) 精神保健福祉センター及び保健所
 - (4) その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
- 3 精神科リハビリテーションのプロセス
- 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - (1) 病院におけるリハビリテーション
 - (2) 社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - (3) 地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
- 4 医療機関におけるリハビリテーション
- 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家族教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
- 5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
- 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - (1) 集団精神療法における精神保健福祉士
 - (2) 生活技能訓練における精神保健福祉士
 - (3) デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
 - (4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士
 - 2) 社会的リハビリテーション
 - (1) 日常生活への適応のための訓練
 - (2) 社会復帰のための相談・助言・指導
- 6 精神科リハビリテーションの総合化

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【備考】

適宜、プリントを配布する
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
精神保健学 <秋集>	
郭 麗 月	4単位

【講義概要】

精神保健について以下に掲げる各項目を教科書、資料を用いて講義する。その時点で話題となっている精神保健関連のテーマについても適宜取り上げて行く。また精神保健福祉士国家試験受験資格科目であるため、試験に必要な知識の獲得も目指す。

【学習目標】

- 1 精神保健についての基本知識について理解させる。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
- 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。
- 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。
- 6 関連法規および施設について理解させる。

【講義計画】

- 第1回 精神保健についての基礎知識
- 1) 精神保健の概要
- 第2回 精神保健についての基礎知識
- 2) 精神保健の意義と課題
- 第3回 ライフサイクルにおける精神保健
- 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
- 第4回 " 2) 学童期における精神保健
- 第5回 " 3) 思春期における精神保健
- 第6回 " 4) 青年期における精神保健
- 第7回 " 5) 成人期における精神保健
- 第8回 " 6) 老年期における精神保健
- 第9回 精神保健における個別課題への取り組み
- 1) 精神障害者対策①
- 第10回 " " ②
- 第11回 " 2) 老人性痴呆疾患対策
- 第12回 " 3) アルコール関連問題対策
- 第13回 " 4) 薬物乱用防止対策
- 第14回 " 5) 思春期精神保健対策
- 第15回 " 6) 地域精神保健対策
- 第16回 " 7) ターミナルケアと精神保健
- 第17回 精神保健活動の実際
- 1) 家庭における精神保健①
- 第18回 " " ②
- 第19回 " 2) 学校における精神保健①
- 第20回 " " ②
- " " " ②
- 第21回 " 3) 職場における精神保健①
- 第22回 " " ②
- 第23回 " 4) 地域における精神保健①
- 第24回 地域精神保健と地域保健
- 1) 地域精神保健施策の概要
- 第25回 " 2) 地域保健施策の概要
- 第26回 " 3) 関係法規
- 第27回 " 4) 関連施策
- 第28回 諸外国における精神保健
- 第29回 レポート指導
- 第30回 30回目 テスト

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 30% 出席 0%
レポート、定期試験で評価する。

【教科書】

（精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編）『精神保健福祉士養成セミナー2「精神保健学」（改定第3版）』へるす出版

【参考文献】

適時紹介する。

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
精神保健福祉援助演習 < 通期 >	
栄 セツコ	4 単位

【学習目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実習指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその制度を高めつつ習得させる。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【講義計画】

- 第1回 精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個人に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し論議しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。
- 1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上がるようにする。
 - 2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。
 - 3 実技指導等
 - (1) 面接実技指導
 - (2) 記録実技指導
 - (3) 集団実技指導
 - (4) 評価・効果測定実技指導
 - 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
 - 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・討議参加状況、レポートを総合して評価する。

【教科書】

適宜指定する。

科目名 クラス 講義区分	
精神保健福祉援助技術各論 < 通期 >	
金 文 美	4 単位

【講義概要】

精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの方法論を、体系的に学び、基本的概念・各援助活動における事例を踏まえながら、具体的に理解する。

【学習目標】

- 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 3 精神障害者ケアマネジメントについてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

【講義計画】

- 第1回 精神保健福祉援助技術各論について
精神保健福祉分野における個別援助技術（ケースワーク）
1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術
- 第2回 精神保健福祉分野におけるケースワークの援助過程 1
- 第3回 精神保健福祉分野におけるケースワークの援助過程 2
- 第4回 精神保健福祉分野におけるケースワークの援助過程 3
- 第5回 精神保健福祉分野におけるケースワークの具体的展開 1
- 第6回 精神保健福祉分野におけるケースワークの具体的展開 2
- 第7回 精神保健福祉分野における集団援助技術（グループワーク）
疾病及び障害に配慮した集団援助技術
- 第8回 集団援助技術（グループワーク）の基本的概念・原則
- 第9回 集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
- 第10回 集団援助技術におけるスーパービジョン
- 第11回 精神科デイケア
- 第12回 精神科デイケア
- 第13回 精神保健福祉分野における集団援助技術とセルフヘルプグループ
- 第14回 援助活動と精神保健福祉士
- 第15回 春季筆記試験
- 第16回 精神保健福祉分野におけるチームアプローチの基本的考え方
- 第17回 チームアプローチにおける専門職の機能と役割
- 第18回 チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割
- 第19回 精神保健福祉分野における地域援助技術（コミュニティワーク）
地域援助技術の概念と基本的性格
- 第20回 地域援助技術の具体的展開
(1) ノーマライゼーションの推進と住民参加
(2) 社会資源の活用と開発
- 第21回 地域援助活動の原則
- 第22回 精神保健福祉ボランティアとセルフヘルプグループ
- 第23回 セルフヘルプグループとピアサポート
- 第24回 精神保健福祉分野における地域援助活動の実際
- 第25回 精神障害者のケアマネジメント
ケアマネジメントの原則
- 第26回 ケアマネジメントの意義と留意点
(1) ケアマネジメントの意義と留意点
(2) 関係機関との連携
- 第27回 ケアマネジメントのプロセス
(1) 受理面接（インテーク）
(2) ニーズの把握とその評価
(3) 目標設定と計画的実施
- 第28回 ケアマネジメントと包括的サービス
- 第29回 障害福祉計画の作成方法と進行管理
1) 基本指針とニーズ調査
- 第30回 障害福祉計画の作成プロセス・計画の進行管理と評価

【成績評価の方法】

春学期小テスト、秋学期レポート、出席

【教科書】

『精神保健福祉士養成講座 6 精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版

科目名 クラス 講義区分

精神保健福祉援助技術総論 <通期>

辻井 誠 人

4 単位

【講義概要】

まず、精神保健福祉士が援助技術を用いて取り組む課題について、VTRなどを使用し理解を促す。また、VTRを使用した場合には「記録」を意識したトレーニングを実施する。

次に精神保健福祉士の置かれている社会的な位置づけとその専門性について解説する。

最後に実践の具体的展開場面を各ステージごとに解説する。

【学習目標】

○援助技術を用いて取り組む課題について理解する。

○精神障害者に対する社会福祉施策とその具体的展開場面である援助活動を体系的に理解する。

○精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職（価値及び倫理、専門技術、専門知識）について理解する。

○精神保健福祉士が用いる専門技術の展開について理解する。

【講義計画】

第1回 本講義の概要、構成、進め方、ルール及び評価などについてのガイダンス

第2回 援助技術を用いて取り組む課題1（精神科疾患の急性症状と入院治療）

第3回 援助技術を用いて取り組む課題2（退院に向けて）

第4回 援助技術を用いて取り組む課題3（地域における様々な取り組み1）

第5回 援助技術を用いて取り組む課題4（地域における様々な取り組み2）

第6回 援助技術を用いて取り組む課題5（地域における新たな取り組み）

第7回 援助技術を用いて取り組む課題6（退院促進支援）

第8回 援助技術を用いて取り組む課題7（薬物依存1）

第9回 援助技術を用いて取り組む課題8（薬物依存2）

第10回 援助技術を用いて取り組む課題9（薬物依存3）

第11回 援助技術を用いて取り組む課題10（統合失調症の主な症状）

第12回 援助技術を用いて取り組む課題11（主な精神疾患）

第13回 援助技術を用いて取り組む課題12（「精神障害者」の定義について）

第14回 援助技術を用いて取り組む課題13（生活の困難性）

第15回 援助技術を用いて取り組む課題14（まとめ）

第16回 精神保健福祉施策が現実化されるシステム1

第17回 精神保健福祉施策が現実化されるシステム2

第18回 精神保健福祉士の専門性（総論的理解）

第19回 精神保健福祉士の専門性（価値と倫理1）

第20回 精神保健福祉士の専門性（価値と倫理2）

第21回 精神保健福祉士の専門性（価値と倫理3）

第22回 相談支援の原則

第23回 個別支援の展開過程（インターク）

第24回 個別支援の展開過程（アセスメント・プランニング）

第25回 個別支援の展開過程（インターベンション・エバリュエーション）

第26回 個別支援の展開過程（ターミネーション）

第27回 個別支援の展開過程（アウトリーチ）

第28回 全体のまとめ

【成績評価の方法】

試験 100%

期末試験の成績で評価する。

レポートの提出を求めた場合はその評価も含める。

出席者が少数の際の出席や授業態度などは期末試験に加算する場合がある。

【教科書】

テキストは指定しない。随時プリントを配布する。

【参考文献】

仲村優一監修『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』中央法規出版1999年

北島・副田・高橋・渡部編『ソーシャルワーク実践の基礎理論』有斐閣2002年

日本社会福祉士協会倫理委員会編『社会福祉士の倫理』中央法規出版2007年

改訂第3版精神保健福祉士養成セミナー第5巻『精神保健福祉援助技術総論』へるす出版2005年

精神保健福祉士養成講座第5巻『改訂 精神保健福祉援助技術総論』中央法規出版2007年

その他講義で随時紹介

科目名 クラス 講義区分		
精神保健福祉援助実習 <通期>		
栄	セツコ	6単位

【学習目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【講義計画】

- 第1回
- 1 実習オリエンテーション
 - 2 視聴覚学習
 - 3 現場体験学習
 - 4 見学実習（急性期病棟など）
 - 5 専門援助技術実習指導
 - 6 リハビリテーション実習指導
 - 7 配属実習
 - 8 全体総括

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）を条件とする。
実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。

【教科書】

特になし

【参考文献】

適時紹介する。

科目名 クラス 講義区分		
精神保健福祉論 <春集>		
栄	セツコ	4単位

【学習目標】

- 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
- 2 精神障害者の人権について理解させる。
- 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
- 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
- 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
- 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
- 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

【講義計画】

- 第1回
- 1 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - (1) 障害者福祉の発達
 - (2) ノーマライゼーション
 - (3) リハビリテーション
 - (4) 生活の質 (QOL)
 - (5) 生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - (1) 障害の概念
 - (2) 障害分類 (国際障害分類を含む)
 - (3) 精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - (1) 障害者基本法
 - (2) 障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - (1) 精神障害者の概念
 - (2) 精神障害者と家族
 - (3) 精神障害者と地域社会
 - (4) 精神障害者のノーマライゼーション
 - 2 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権
 - 3 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
 - 4 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁 (バリアー)
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - (1) 医療施設における相談援助活動
 - (2) 社会復帰施設等における相談援助活動
 - (3) 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例
 - 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
 - 1) 精神保健福祉法の意義と内容
 - 2) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 3) 関連法について
 - 6 精神保健福祉施策の概要
 - 1) 精神保健福祉に関する行政組織
 - 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度 (公費負担医療等)
 - 3) 精神保健福祉施策の課題
 - (1) 精神障害者福祉対策
 - (2) 社会復帰対策
 - 4) 精神保健福祉における社会資源
 - (1) 精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
 - (2) 社会資源
 - 7 精神保健福祉の関連施策
 - 1) 雇用・就業 (障害者雇用促進法等の概要を含む)
 - 2) 所得保障
 - 3) 経済負担の軽減
 - 4) 生活環境の改善

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【教科書】

(精神保健福祉士養成講座編集委員会編)『精神保健福祉論』(中央法規出版社)

科目名 クラス 講義区分

生徒・進路指導論 01 <春>
生徒・進路指導論 02 <秋>

岸 田 淳 一
橋 野 藏

2単位

【講義概要】

今日、学校は様々な問題を抱えている。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、高校中退など生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成等、生徒・進路指導の新しい課題も指摘され、教育改革の取り組みがすでに始まっている。このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒・進路指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めて行く。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより問題解決に向けての考え方(法則性)を修得する。併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応(生徒指導・進路指導の技術)と子どもたちに接する姿勢(指導の心)を学びとれるように展開する。

【学習目標】

1. 生徒指導の基礎基本について修得し、適切に生徒指導を実践しうる。
2. 進路指導の基礎基本について修得し、適切に生徒指導を実践しうる。

【講義計画】

- 第1回 生徒指導とは：授業計画と進め方。子どもたちの状況と生徒・進路指導のあり方
- 第2回 学校現場の実践から学ぶ事例研究1：校則・生徒心得
- 第3回 学校現場の実践から学ぶ事例研究2：いじめ
- 第4回 学校現場の実践から学ぶ事例研究3：不登校
- 第5回 学校現場の実践から学ぶ事例研究4：授業妨害・学級崩壊
- 第6回 学校現場の実践から学ぶ事例研究5：校内暴力
- 第7回 学校現場の実践から学ぶ事例研究6：性に関する問題行動
- 第8回 求められる生徒・進路指導1：子どもたちとの関わり方
- 第9回 求められる生徒・進路指導2：保護者との関わり方
- 第10回 求められる生徒・進路指導3：学級経営に生かせるカウンセリングの演習
- 第11回 求められる生徒・進路指導4：構成的グループエンカウンター演習
- 第12回 求められる生徒・進路指導5：生き方としての進路指導
- 第13回 求められる生徒・進路指導6：職場体験学習
- 第14回 求められる生徒・進路指導7：地域と一体の子育て支援活動
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%
出席状況・授業中の発表・期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。ただし、2/3以上の出席がなければ評価しない。

【教科書】

毎時間、プリントを配布する。

【参考文献】

参考書・参考資料等
中谷・碓井編『生徒指導のフロンティア』、晃洋書房
『中学校・高等学校進路指導手引き 個別指導』、文部省

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
税法A <春>	
木村吉孝	2単位

【講義概要】

税法とは租税に関する法のことであるが、わが国では『税法』という名称の法典があるわけではない。所得税法や法人税法など多数の法律とそれを施行する施行法や省令から税法は成り立っている。私たち納税者は、これら税法の定めるところにしたがって国や地方公共団体に租税を納めることになるため、税法の内容は私たちの生活に密接に関係している。そこで、税法全般における基礎理論や通則等についてよく理解し、また主要な税目についてその納税義務の成立・確定・履行に関する基本的な知識を習得することは、今日の経済社会における私たちの重要な課題といえる。

『税法A』では、まず税法の基礎理論として、税法の体系や基本原則、解釈・適用について概説した上で、所得税に焦点をあててその課税要件や税額の計算構造について学習する。

【学習目標】

受講生は、授業とその復習を通じて、税法の基礎理論と所得税の仕組みや問題点について十分に理解することが期待される。

【講義計画】

- 第1回 租税の意義と種類
- 第2回 税法の意義と体系
- 第3回 税法の基本原則
- 第4回 税法の解釈と適用
- 第5回 課税要件総論
- 第6回 所得税の意義と類型
- 第7回 所得税の課税要件
- 第8回 各種所得の意義と範囲
- 第9回 各種所得の金額
- 第10回 損益通算
- 第11回 所得控除
- 第12回 所得税額の計算
- 第13回 所得税の申告と納付
- 第14回 源泉徴収と年末調整

【成績評価の方法】

試験 75% レポート 15% 出席 10%

【教科書】

清永敬次 税法（第七版・第3刷）ミネルバ書房

【参考文献】

金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門（第6版）』（有斐閣新書）
金子宏『租税法（第十四版）』（弘文堂）

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
税法B <秋>	
木村吉孝	2単位

【講義概要】

税法はいくつかの法律とそれを施行する施行法や省令から成り立っている。税法は複雑・難解といわれるが、その内容は私たちの生活に密接に関係しているため、税法の基礎理論や通則等をよく理解し、主要な税目の課税要件や計算構造を理解することは私たちの重要な課題である。

税法Bでは、税法全般に共通する通則や手続きについて概観するとともに、相続税に焦点をあててその課税要件や税額計算の仕組みについて学習する。

【学習目標】

受講生は、授業とその復習を通じて、税法の手法に関する基礎知識と相続税の計算構造や特徴について十分に理解することが期待される。

【講義計画】

- 第1回 相続税の意義
- 第2回 相続に関する民法の規定(1)
- 第3回 相続に関する民法の規定(2)
- 第4回 相続税の課税要件
- 第5回 相続税額の計算(1)
- 第6回 相続税額の計算(2)
- 第7回 相続財産の評価
- 第8回 贈与税と相続時精算課税制度
- 第9回 相続税の申告と納税
- 第10回 納税義務の成立・承継・消滅
- 第11回 納税義務の確定
- 第12回 租税の納付と徴収
- 第13回 納税者の権利救済
- 第14回 租税犯とその処罰
- 第15回

【成績評価の方法】

試験 75% レポート 15% 出席 10%

【教科書】

清永敬次 税法（第七版・第3刷）ミネルバ書房

【参考文献】

金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門（第6版）』（有斐閣新書）
金子宏『租税法（第十四版）』（弘文堂）

【備考】

「税法A」を受講済であることが望ましい。
<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分

税務会計 <春集>

金 光 明 雄

4単位

【講義概要】

税務会計は、企業（個人企業と法人企業の両方を含む）の活動内容を記録し、それに基づいて企業の課税所得金額と税額を計算して、その結果を報告する過程です。税務会計によって生み出される情報は、申告納税制度のもとでは、まず税務当局に対して報告されます。さらに合理的な租税負担を可能にする有効なタックス・プランニングのための情報として企業の経営者に対しても報告されます。最近では特に後者に関して、できるだけ納税額を節約（「脱税」とは違う）して税引後キャッシュ・フローを増やすことが、企業価値最大化の観点から注目されており、税務会計の果たす役割はますます重要なものとなってきています。

この講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額や税額の計算の仕組みとルールを、財務会計との相違点にも触れながら解説します。

【学習目標】

税務会計の基本的な構造が体系的に理解できるようになることを目指します。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（税務会計とは）
- 第2回 わが国の法人所得課税制度の概要
- 第3回 課税所得計算の構造
- 第4回 益金計算の原則と特例
- 第5回 損金計算の原則と特例
- 第6回 益金の計算（販売収益・請負収益）
- 第7回 益金の計算（譲渡収益・役員収益・その他収益）
- 第8回 益金の計算（受取配当金）
- 第9回 損金の計算（棚卸資産の売上原価・有価証券の譲渡損益）
- 第10回 損金の計算（固定資産の減価償却費）
- 第11回 損金の計算（固定資産の特別償却）
- 第12回 損金の計算（固定資産の圧縮記帳）
- 第13回 損金の計算（繰延資産の償却費）
- 第14回 損金の計算（給与等・寄附金）
- 第15回 損金の計算（交際費等・租税公課）
- 第16回 損金の計算（貸倒損失・資産の評価損）
- 第17回 損金の計算（引当金繰入額・準備金積立額）
- 第18回 欠損金の繰越し・繰戻し
- 第19回 税額の計算・法人税申告書の作成
- 第20回 企業組織再編税制（概要）
- 第21回 企業組織再編税制（株式移転・株式交換）
- 第22回 企業組織再編税制（合併・会社分割）
- 第23回 連結納税制度（概要）
- 第24回 連結納税制度（連結所得金額の計算）
- 第25回 連結納税制度（連結税額の計算）
- 第26回 国際課税（移転価格税制）
- 第27回 国際課税（タックス・ヘイブン税制）
- 第28回 国際課税（過少資本税制）

【成績評価の方法】

試験 100%

原則として期末試験（100点満点）の結果で評価します。

この講義では、理解を深めるために、計算演習を中心としたレポートの作成（ただし提出は任意）を求めます。レポートの評価は、平常点として期末評価に加点調整します。

【教科書】

初回の講義でレジュメを配布します。

【参考文献】

菊谷正人・依田俊伸『法人税法要説（新版）』同文館出版、2008年。
下村英紀『基本テキストシリーズ 法人税法（改訂版）』同文館出版、2006年。
中田信正『税務会計要論（16訂版）』同文館出版、2008年。
成道秀雄（編著）『新版 税務会計論』中央経済社、2007年。

【備考】

この講義の具体的な進め方や成績評価の方法については初回の講義で説明しますので、受講希望者は必ず初回の講義に出席してください。

科目名 クラス 講義区分

西洋経済史 <秋集>

前 田 治 郎

4単位

【講義概要】

18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第1次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。

【学習目標】

この講義の対象はイギリス中心のパクス・ブリタニカであるが、第二次大戦後の世界はアメリカ合衆国中心のパクス・アメリカーナに変転している。資本主義の世界体制の構造と動態要因について理解を深め、現代世界を理解する一助としたい。

【講義計画】

- 第1回 講義概要の説明
- 第2回 18世紀半ばのヨーロッパ
- 第3回 イギリス産業革命（綿工業）
- 第4回 イギリス産業革命（農業革命）
- 第5回 イギリス産業革命（生産手段生産部門）
- 第6回 フランス革命
- 第7回 プロイセン改革
- 第8回 アメリカ独立革命
- 第9回 19世紀第2・四半期イギリス経済の概要
- 第10回 工場法
- 第11回 新救貧法
- 第12回 チャーティスト運動
- 第13回 反穀物法同盟
- 第14回 ビール銀行法
- 第15回 19世紀第3・四半期世界経済の概要
- 第16回 中心国イギリスによる世界の編成
- 第17回 フランスの産業革命
- 第18回 ドイツの産業革命
- 第19回 アメリカの産業革命
- 第20回 ロシア、イタリア、日本
- 第21回 植民地・従属諸国（アイルランド・インド）
- 第22回 19世紀末大不況期
- 第23回 独占資本主義
- 第24回 ドイツの独占資本主義
- 第25回 アメリカの独占資本主義
- 第26回 イギリス・フランスの独占資本主義
- 第27回 第一次世界大戦
- 第28回 講義のまとめ

【成績評価の方法】

授業中に予告なく7回程度の小テストを行う。その意味では出席も成績に反映する。

【参考文献】

藤瀬浩司（著）『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房）
ISBN9784623013050

科目名 クラス 講義区分	
西洋思想史 <通期>	
山川 偉也	4単位

【講義概要】

ホメロスからディオゲネスまでのギリシア思想を、歴史区分に即して一般的に講義する。

【学習目標】

西洋思想史の根幹をなすギリシア思想の特質を理解し、西洋思想を学ぶうえでの眼目を養うように指導する。

【講義計画】

- 第1回 Introduction 1
- 第2回 Introduction 2
- 第3回 ホメロスの世界 1
- 第4回 ホメロスの世界 2
- 第5回 ヘシオドスの世界 1
- 第6回 ヘシオドスの世界 2
- 第7回 タレス 1
- 第8回 タレス 2
- 第9回 アナクシマン드로ス 1
- 第10回 アナクシマン드로ス 2
- 第11回 ギリシア悲劇に見るギリシア人の人間観 1
- 第12回 ギリシア悲劇に見るギリシア人の人間観 2
- 第13回 ヘラクレイトス 1
- 第14回 ヘラクレイトス 2
- 第15回 パルメニデス 1
- 第16回 パルメニデス 2
- 第17回 パルメニデス 3
- 第18回 ゼノン 1
- 第19回 ゼノン 2
- 第20回 ゼノン 3
- 第21回 プラトン 1
- 第22回 プラトン 2
- 第23回 プラトン 3
- 第24回 アリストテレス 1
- 第25回 アリストテレス 2
- 第26回 アリストテレス 3
- 第27回 ヘレニズムの世界
- 第28回 ディオゲネス 1
- 第29回 ディオゲネス 2
- 第30回 総括

【成績評価の方法】

試験+小試験+出席

【教科書】

山川偉也 古代ギリシアの思想 講談社学術文庫
 山川偉也 哲学者ディオゲネス 講談社学術文庫

【参考文献】

Hideya Yamakawa, Visible and Invisible in Greek Philosophy, University Press of America. pp. xxii+355.
 ISBN-13:978-0-7618-3953

科目名 クラス 講義区分	
西洋文化史 <秋集>	
岩津 洋二	4単位

【講義概要】

今日のヨーロッパはEU（欧州連合）として統合が進みつつある。各国人意識を越えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増えているが、他方では自民族の文化的伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せている。この講義は、おおきく変貌しつつあるヨーロッパを全体的にとらえ、ヨーロッパ文化の現在を理解するための枠組みを提示することを目的とする。

したがって、建築や美術といった特定の文化領域の歴史やイタリアやイギリスといった特定の地域の文化の特徴をたどるような講義ではない。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり注目されてこなかった側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察する。ヨーロッパの過去・現在・未来を見通す視座を提供するような講義にしたいと考えている。

【学習目標】

近代日本のモデルであり、今日でも憧れの地であるヨーロッパについての知見を深める。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「西洋」の概念
- 第3回 「西洋」の地域
- 第4回 西洋文化の一般的特徴
- 第5回 西洋の多様性
- 第6回 感性の変貌Ⅰ 風景の誕生
- 第7回 感性の変貌Ⅱ 清潔観
- 第8回 感性の変貌Ⅲ 食文化
- 第9回 聖遺物信仰
- 第10回 キリスト教化について
- 第11回 非キリスト教的ヨーロッパ
- 第12回 ヨーロッパ史の謎
- 第13回 ヨーロッパ人意識
- 第14回 ヨーロッパ統合の歴史的基盤Ⅰ
- 第15回 ヨーロッパ統合の歴史的基盤Ⅱ
- 第16回 騎士道とヨーロッパ文化
- 第17回 国民性とはなにか
- 第18回 ナショナリズムの問題
- 第19回 民族性について
- 第20回 非ヨーロッパとの関係
- 第21回 植民地からの視点
- 第22回 ヴェレリーのヨーロッパ論
- 第23回 アメリカ対ヨーロッパ
- 第24回 多文化的ヨーロッパ
- 第25回 ライフスタイルの変化
- 第26回 新しいヨーロッパ人像
- 第27回 総括

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 30%
 ただし、試験は期末試験だけでなく、平常の授業時間内にもおこなわれることがある。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分

世界経済事情 <春集>

モグベル ザファル

4単位

【講義概要】

今日の世界経済では、もはや「対岸の火事」と悠長なことでは言われていません。すべての経済現象が同時進行でグローバルに展開し、国境を無視した形でボーダレスに迫ってきます。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根がぼやけて行く中で、世界の経済状況に関する的確な情報と理解が問われていることは言うまでもありません。このような観点から、講義の前半部分では「世界経済入門」を通じて世界経済の現状について理解を深め、後半部分では世界経済に関係したトピックスを取り上げて、日本国内の問題に関連づけながら説明します。できるだけタイムリーな、そして受講生が強い関心を持てるようなトピックスを選ぶことを目指します。

なお、後半の世界経済に関連するトピックスの内容や順序は、世界情勢の展開により変わることがあります。

【学習目標】

世界経済の仕組と今日的トピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の狙いです。受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの理解とオピニオンを持てるようになればこの講義の目的は果たされたと考えます。

【講義計画】

- 第1回 はじめに： 今日の世界経済を展望して
- 第2回 「ヒト・モノ・カネの国際移動とその分類
- 第3回 先進国・中進国・途上国とその他の分類
- 第4回 世界銀の「所得番付表」に見る各国経済のランキング
- 第5回 様々な観点から見た世界の中の日本のランキング
- 第6回 国連「ミレニアム開発計画」とその目標
- 第7回 開発の三つのキーワード：Empowerment, Ownership, Grassroots
- 第8回 開発途上国の貧困の問題
- 第9回 グラミン運動と貧困の克服（ビデオ上映）
- 第10回 まとめ
- 第11回 世界経済のルールとその起源
- 第12回 GATT・WTO体制と世界貿易
- 第13回 GATT・WTO体制の三大原則とその例外措置
- 第14回 ドーハ・ラウンド交渉の経過と結末
- 第15回 IMFと国際金融制度
- 第16回 金融危機とIMFコンディショナリティ
- 第17回 外国為替市場の仕組み
- 第18回 変動相場制のもとの日本円の歴史・前半
- 第19回 変動相場制のもとの日本円の歴史・後半
- 第20回 日本を変えたプラザ合意（ビデオ上映）
- 第21回 まとめ
- 第22回 アメリカ発の金融危機
- 第23回 機軸通貨ドルをめぐる諸問題
- 第24回 石油情勢と「第3次石油危機」
- 第25回 経済グローバル化の光と陰
- 第26回 グローバル化への日本の対応
- 第27回 東アジア地域統合と日本の対応
- 第28回 日本のODA（政府開発援助）の現状と行方
- 第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

出席点は授業中に行う数回の小テストの結果を含む。

【備考】

テキストの代わりに資料をほとんど毎回配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待します。

科目名 クラス 講義区分

世界市民－家庭と人権：過去・現在・未来 <秋>

佐藤 啓子

2単位

【講義概要】

家族の過去の姿から未来への進化とあわせて、今の自分にとっての過去（たとえば胎児の「人権」）から未来（たとえば高齢者）にいたるまでに起こりえた、いわば足もとの人権問題を、家族を基点に取り上げる。

なお、講義の進行には若干の前後や入れ替えなどがあるかもしれないことを留保しておく。

【学習目標】

身近な問題を人権問題として取り上げることのできる法的意識と法的思考を身につけることを目標とする。とはいえ、条文は使うが、体系的思考よりもむしろ、きちんと事態に向き合って考えることができる能力を法律面から養えるようになってもらいたい。内容的に、自分の体験とあわせると「考えるとしんどい」テーマもありうるので、そこは了解の上参加していただきたい。

【講義計画】

- 第1回 家族制度について ー大家族、「家」から小家族へー
- 第2回 生殖補助医療 ー命はどこからくるのかー
- 第3回 中絶 ー障害者の「生まれない」自由?!ー
- 第4回 児童虐待
- 第5回 養子制度と児童福祉
- 第6回 非嫡出子差別
- 第7回 性の多様性と社会
- 第8回 結婚と氏
- 第9回 ドメスティック・バイオレンス
- 第10回 失業と生活扶助
- 第11回 家族と国境
- 第12回 老老介護
- 第13回 尊厳死・安楽死と臓器移植
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

試験 87% 出席 13%

抜き打ちで取る出席と、定期試験の結果とで評価する。

【教科書】

2010年版デイリー六法 三省堂

第3回目の授業以降は、必ず持参してください。

テストのときにも持ち込み可とします。

【参考文献】

朝日新聞大阪社会部『海を渡る赤ちゃん』朝日新聞

京都YWCA・APT編『人身売買と受入大国ニッポン』明石書店 など。

（この授業で扱うすべてのテーマに関する本はないので、授業でも紹介します）

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－環境と経済について考える <秋>	
藤田 香	2単位

【講義概要】

この講義では「環境保全のための公共政策」をテーマとし、ますます結びつきが強まる「環境」と「経済」との関係と、それに関連する諸制度についての解説を行います。

具体的には、まず地球環境問題などの概説を行い、対象とする環境問題に対する理解を深めることから始めます。その後、環境問題の現状や公共政策の実施状況など、「環境」と「経済」とのかかわりについて講義を進めます。

適宜、講義で取り扱うテーマに関する受講生間の討論や映像等の紹介を行う予定です。

【学習目標】

本講義を通じて、環境問題について考えるきっかけや、身近な問題から世界全体が取り組むべき環境問題について、世界市民の一人として、どのように考え、どのように行動するのかを考える一助となることを期待します。

【講義計画】

- 第1回 環境問題とは(1)
- 第2回 環境問題とは(2)
- 第3回 環境問題へのアプローチ(1)
- 第4回 環境問題へのアプローチ(2)
- 第5回 環境問題へのアプローチ(3)
- 第6回 環境と国際経済システム(1)
- 第7回 環境と国際経済システム(2)
- 第8回 環境の指標と評価(1)
- 第9回 環境の指標と評価(2)
- 第10回 環境政策(1)
- 第11回 環境政策(2)
- 第12回 循環型社会(1)
- 第13回 循環型社会(2)
- 第14回 環境ガバナンス(1)
- 第15回 環境ガバナンス(2)

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

【参考文献】

環境経済・政策学会編 (2006) 『環境経済・政策学の基礎知識』、有斐閣ブックス、3200円。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－環境問題へのアプローチ <春>	
藤田 香	2単位

【講義概要】

この講義は、担当者のほか、本学の専任教員等が各々の専門分野から環境問題に関わる部分を中心に講義を行います。様々な角度から環境問題についての基礎的な知識を学ぶことによって、今後さらに深く環境問題を考えるきっかけになることを期待いたします。

【学習目標】

現在、環境問題はそれ自体が問題であるというばかりではなく、社会経済活動の様々な面において影響を与えています。日々の暮らしの中から企業経営に至るまで、環境問題をどのように考え、どのように対処するかについて考えることなくして、私たちの社会が維持可能になるかを考えることはできません。

世界全体が取り組むべき環境問題について、世界市民の一人として、どのように考え、どのように参加し、どのように行動するのか、解決への処方箋を探ってみてください。

【講義計画】

- 第1回 環境問題へのアプローチ
- 第2回 都市の発展と公害問題(1)
- 第3回 都市の発展と公害問題(2)
- 第4回 憲法と環境権について
- 第5回 生態系と生物多様性の保全(1)
- 第6回 生態系と生物多様性の保全(2)
- 第7回 南大阪の再生と自然環境の保全・活用(1)
- 第8回 南大阪の再生と自然環境の保全・活用(2)
- 第9回 環境問題と企業経営(1)
- 第10回 環境問題と企業経営(2)
- 第11回 廃棄物問題とリサイクル産業(1)
- 第12回 廃棄物問題とリサイクル産業(2)
- 第13回 地球温暖化問題と環境政策(1)
- 第14回 地球温暖化問題と環境政策(2)

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

【参考文献】

必要に応じて、適宜紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－キリスト教 I 01 <春>	
滝澤 武人	2単位

【講義概要】

本学の「建学の精神」である「キリスト教精神」から「世界市民」に光をあてることがこの講義の概要であり目標です。桃山学院のモットーである「我に従え」の「我」とは、もちろん「イエス・キリスト」のことです。したがって、一人の偉大な人間イエスの歴史的な姿を明らかにすることが中心的な課題となります。そのためにはどれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような状況の中で、誰に向かって、どんな意図とニュアンスで語られたものなのかを、学問的に慎重に判断しなければなりません。

全体的には、私の著書『イエスの現場』に基づいて講義します。

【学習目標】

イエスは社会の最下層・最底辺の人間たちと共に生き、彼らの自由と愛のために闘い、十字架刑で処刑された人間と言えるでしょう。そして、そのようなイエスの生き方は、「キリスト教」の枠をはるかに越えた普遍性と世界市民性を獲得しています。イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、ザビエル、マザー・テレサらに受け継がれ、現代においても人権・福祉・ボランティア・教育などの問題に関心を有する世界中の多くの人々に、大きな感動と希望を与えつづけています。

なじみ難いテーマかもしれませんが、真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を期待しています。なお、大学における授業ですので、「信仰」の有無などはまったく関係ありません。

【講義計画】

- 第1回 「新約聖書」「福音書」「イエス」
- 第2回 ビデオ(1)
- 第3回 山上の説教
- 第4回 神の国とは？
- 第5回 論争物語
- 第6回 癒し物語
- 第7回 譬え
- 第8回 終末をどう生きる？
- 第9回 どんな人？
- 第10回 受難物語(1)
- 第11回 # (2)
- 第12回 復活物語
- 第13回 誕生物語
- 第14回 ビデオ(2)

【成績評価の方法】

試験 75% レポート 10% 出席 15%
最初の授業で説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】

滝澤武人 イエスの現場～苦しみの共有 世界思想社
ギデオン協会版『新約聖書』をキリスト教センターで配布予定ですので、毎時間必ず持参してください。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－キリスト教 I 02 <秋>	
滝澤 武人	2単位

【講義概要】

本学の「建学の精神」である「キリスト教精神」から「世界市民」に光をあてることがこの講義の概要であり目標です。桃山学院のモットーである「我に従え」の「我」とは、もちろん「イエス・キリスト」のことです。したがって、一人の偉大な人間イエスの歴史的な姿を明らかにすることが中心的な課題となります。そのためにはどれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような状況の中で、誰に向かって、どんな意図とニュアンスで語られたものかを、学問的に慎重に判断しなければなりません。全体的には、私の著書『イエスの現場』に基づいて講義します。

【学習目標】

イエスは社会の最下層・最底辺の人間たちと共に生き、彼らの自由と愛のために闘い、十字架刑で処刑された人間と言えるでしょう。そして、そのようなイエスの生き方は、「キリスト教」の枠をはるかに越えた普遍性と世界市民性を獲得しています。イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、ザビエル、マザー・テレサらに受け継がれ、現代においても人権・福祉・ボランティア・教育などの問題に関心を有する世界中の多くの人々に、大きな感動と希望を与えつづけています。

なじみ難いテーマかもしれませんが、真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を期待しています。大学における学問的な授業ですので、「信仰」の有無などはまったく関係ありません。

【講義計画】

- 第1回 「新約聖書」「福音書」「イエス」
- 第2回 ビデオ(1)
- 第3回 山上の説教
- 第4回 神の国とは？
- 第5回 論争物語
- 第6回 癒し物語
- 第7回 譬え
- 第8回 終末をどう生きる？
- 第9回 どんな人？
- 第10回 受難物語(1)
- 第11回 # (2)
- 第12回 復活物語
- 第13回 誕生物語
- 第14回 ビデオ(2)

【成績評価の方法】

試験 75% レポート 10% 出席 15%
最初の授業で説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】

滝澤武人 イエスの現場～苦しみの共有 世界思想社
ギデオン協会版『新約聖書』をキリスト教センターで配布予定ですので、毎時間必ず持参してください。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－グローバル化社会のもとでの企業行動 01 <秋>	
世界市民－グローバル化社会のもとでの企業行動 02 <秋>	
片岡 信之	2単位

【講義概要】

グローバル化は現代のキーワードの一つです。それは政治、経済、社会、文化等のあり方全般において、大きなインパクトを持って、私たちの前に立ち現れて来ています。この講義では、このグローバル化時代において、企業を取り巻くマクロ的状況がどのようなものであるのか、その中で企業はどのように行動をしているのかを包括的にとりあげ、理解することになります。

【学習目標】

グローバル化社会のもとでの企業行動が持つ意味を広い視点から解説し、受講者各自の判断材料を提供し、今後を見通す視野を構築してもらうことを目標とします。

【講義計画】

- 第1回 20世紀末以降世界の政治的・経済的・社会的構造変化
- 第2回 社会主義体制の崩壊とグローバル単一市場の成立
- 第3回 国際的政治・経済・社会の構造変化
- 第4回 資本主義の変化1
- 第5回 資本主義の変化2
- 第6回 資本主義の変化3
- 第7回 成熟社会の到来
- 第8回 企業社会の変化
- 第9回 企業の国際化・地球環境保全・人間尊重・企業市民1
- 第10回 企業の国際化・地球環境保全・人間尊重・企業市民2
- 第11回 グローバル企業の構造と行動
- 第12回 グローバル化する日本企業
- 第13回 .異文化間コミュニケーション
- 第14回 グローバリゼーションの光と影
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 40%
 期末試験終了後に、受講ノートの提出を希望する人は提出して下さい（試験当日中に限る）。上記の「レポート」とは、このノートのことを意味します。ノートは自分が受講して作ったノートに限ります。他人のノートを借りて丸写ししたノートは、借り手・貸し手ともにそのノートをゼロ評価とします。

【教科書】

Power Pointとプリント教材配布による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－現代イスラーム情勢 <春>	
今澤 浩二	2単位

【講義概要】

この講義では、西アジアの現代イスラーム情勢に重点を置き、現在、イスラーム世界で何が起きているのかについて考えていく。よく宗教紛争と誤解されるパレスチナ問題とは実際いかなるものなのか。イスラーム主義運動（いわゆる「イスラーム原理主義」）とはどのようなものなのか。湾岸戦争やイラク戦争はなぜ起こり、現在イラクはどうなっているのか。なぜイスラーム世界では反米感情が渦巻いているのか。こうした点を中心に検討する。

【学習目標】

イスラームの現代情勢について、その原因と経過を理解し、それを通じて現代の世界情勢を把握することを目標とする。これは、「世界市民」となるための必須のものである。

【講義計画】

- 第1回 イスラーム①（六信）
- 第2回 イスラーム②（五行）
- 第3回 イスラーム③（イスラーム法）
- 第4回 9・11テロ事件
- 第5回 「イスラーム原理主義」
- 第6回 タリバンとオサマ・ビン・ラーディン
- 第7回 パレスチナ問題①
- 第8回 パレスチナ問題②
- 第9回 パレスチナ問題③
- 第10回 パレスチナ問題④
- 第11回 イラン情勢①
- 第12回 イラン情勢②
- 第13回 イラク問題①
- 第14回 イラク問題②

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%
 初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【参考文献】

- 高橋和夫『アラブとイスラエル-パレスチナ問題の構図』（講談社現代新書、1992）
- 広河隆一『パレスチナ 新版』（岩波新書、2002）
- 酒井啓子『イラクとアメリカ』（岩波新書、2002）
- 酒井啓子『イラク 戦争と占領』（岩波新書、2004）
- 田中宇『タリバン』（光文社新書、2001）
- 宮田律『現代イスラームの潮流』（集英社新書、2001）
- 島敏夫『中東世界を読む』（創成社新書、2006）

【講義概要】

虹 (rainbow) はいくつの色からなっているでしょうか？ 7色だというのは、日本人・中国人・韓国人・フランス人たちだけです。英米はじめ、英語圏の人びとに見えるのは、6色です（ご存知でしたか？）。また、インド人やインドネシア人には5色に見えるそうです。さらに、ジンバブエのアフリカ人には3色、リベリアのアフリカ人には2色にしか見えないそうです。

日本人は太陽を赤くまるく描きます。しかし、欧米や中央アジアなど、地球上では太陽を黄色くまるく描く民族の方がはるかに多いのです。台湾の国旗は「晴天白日旗」と言われますが、相当数の中国人には、太陽は白く見えているのでしょうか。

同じ場所で、同じ時刻に、同じ事物を見る場合でも、民族ごとに違って見えるわけです。それは民族間で異なる〈ことば〉の違いによります。この講義では、ことばがコミュニケーションの手段にとどまらず、もっと深刻かつ強烈に、人間の知覚・認識・行動まで拘束することを明らかにします。

【学習目標】

以下の内容について、専門学科学的でなく共通教育的な理解を学習目標とします。

- ① 認識と存在の関係
- ② ことばの二大機能
- ③ 人間と動物の違い
- ④ ことばと経営の関係

【講義計画】

- 第1回 この科目オリエンテーション
- 第2回 認識とことば：その①
- 第3回 認識とことば：その②
- 第4回 意味の意味：その①
- 第5回 意味の意味：その②
- 第6回 連辞関係と連合関係：その①
- 第7回 中間試験（期間外）
- 第8回 連辞関係と連合関係：その②
- 第9回 連辞関係と連合関係：その③
- 第10回 神話とタブー：その①
- 第11回 神話とタブー：その②
- 第12回 会社は誰のものか？
- 第13回 ことば・認識・経営（まとめ）
- 第14回 学期末試験（期間外）

【成績評価の方法】

学期中の中間テスト（1回予定）と学期末試験との総合点で評価します。

また、授業中の質疑応答における正答者にはボーナス・カードを支給し、その枚数によっても加点評価します。さらに、学期中にレポートを課した場合、充実した内容の提出者にも加点評価します。

【教科書】

全 在 紋『会計言語論の基礎』中央経済社
【毎時間必携】

【参考文献】

丸山圭三郎著、『ソーシャルを読む』、岩波書店、1983年
ISBN 4000048724

【講義概要】

虹 (rainbow) はいくつの色からなっているでしょうか？ 7色だというのは、日本人・中国人・韓国人・フランス人たちだけです。英米はじめ、英語圏の人びとに見えるのは、6色です（ご存知でしたか？）。また、インド人やインドネシア人には5色に見えるそうです。さらに、ジンバブエのアフリカ人には3色、リベリアのアフリカ人には2色にしか見えないそうです。

日本人は太陽を赤くまるく描きます。しかし、欧米や中央アジアなど、地球上では太陽を黄色くまるく描く民族の方がはるかに多いのです。台湾の国旗は「晴天白日旗」と言われますが、相当数の中国人には、太陽は白く見えているのでしょうか。

同じ場所で、同じ時刻に、同じ事物を見る場合でも、民族ごとに違って見えるわけです。それは民族間で異なる〈ことば〉の違いによります。この講義では、ことばがコミュニケーションの手段にとどまらず、もっと深刻かつ強烈に、人間の知覚・認識・行動まで拘束することを明らかにします。

【学習目標】

以下の内容について、専門学科学的でなく共通教育的な理解を学習目標とします。

- ① 認識と存在の関係
- ② ことばの二大機能
- ③ 人間と動物の違い
- ④ ことばと経営の関係

【講義計画】

- 第1回 この科目オリエンテーション
- 第2回 認識とことば：その①
- 第3回 認識とことば：その②
- 第4回 意味の意味：その①
- 第5回 意味の意味：その②
- 第6回 連辞関係と連合関係：その①
- 第7回 中間試験（期間外）
- 第8回 連辞関係と連合関係：その②
- 第9回 連辞関係と連合関係：その③
- 第10回 神話とタブー：その①
- 第11回 神話とタブー：その②
- 第12回 会社は誰のものか？
- 第13回 ことば・認識・経営（まとめ）
- 第14回 学期末試験（期間外）

【成績評価の方法】

学期中の中間テスト（1回予定）と学期末試験との総合点で評価します。

また、授業中の質疑応答における正答者にはボーナス・カードを支給し、その枚数によっても加点評価します。さらに、学期中にレポートを課した場合、充実した内容の提出者にも加点評価します。

【教科書】

全 在 紋『会計言語論の基礎』中央経済社
【毎時間必携】

【参考文献】

丸山圭三郎著、『ソーシャルを読む』、岩波書店、1983年
ISBN 4000048724

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－世界市民の基礎知識 01 <春>	
宮本孝二	2単位

【講義概要】

世界市民の形成への動きは、激しく変動し多くの問題に直面している現在の世界にはわずかしか見ることにはできないと思われるかもしれない。たしかにそれはかすかな可能性でしかない。しかし、人類史を回顧するならば、1万年前の農業の発明以来の伝統的社会の歴史が終わり、200年ほど前に本格化した近代化のなかで諸民族を統合した国民国家が形成され、国民に市民権が保障されるようになり、さらに市民権の種類と適用範囲が拡大し、それらが国民を超えていく方向性を展望できるのも確かである。もちろん、直面する諸問題はあまりに多く、さらには解決困難なものばかりである。この講義では、人類史を総括しつつ、それらの問題の内容、原因と対応策について解説し、世界市民であるための基礎知識を提供したい。

【学習目標】

この講義は、本学の建学の理念でもある世界市民の育成に向けて、その基本となる世界市民の基礎知識を習得してもらうことを目的としている。世界市民とは現在のところは理想にとどまっているが、これこそ現代世界が目標とすべきものであり、現代に生きる人々が世界市民となるべく自己形成し役割遂行することが期待される。そのための基礎知識として、この講義ではまず、目標となる世界市民の理念ないし理想を、その歴史的形成過程をたどりつつ示し、次いでその理想の実現を妨げている現代世界の主要問題の現状、原因、対策を可能な限りわかりやすく示したい。以上のように世界事情を解説するなかで、市民権すなわち人権や、これも本学建学の理念の基礎にあるキリスト教や、現代世界での大学生の役割などについても理解を深めていただけるであろう。

【講義計画】

- 第1回 序論：世界市民とは誰のことか
- 第2回 貧困、不平等、飢餓と資本主義
- 第3回 産業化と環境破壊
- 第4回 国民国家、民族、民主主義
- 第5回 戦争、紛争、テロリズム
- 第6回 宗教対立と原理主義
- 第7回 グローバル犯罪
- 第8回 人身売買と児童労働
- 第9回 移民、難民、先住民
- 第10回 世界市民とアイデンティティ問題
- 第11回 比較文化と異文化理解
- 第12回 グローバルな危機管理
- 第13回 まとめと補足(1)
- 第14回 まとめと補足(2)
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%
学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論論述問題）の結果によって評価する。

【教科書】

特に使用しない。配布資料によって授業を進める。

【参考文献】

テーマごとに必要に応じてその都度紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－世界市民の基礎知識 02 <秋>	
宮本孝二	2単位

【講義概要】

世界市民の形成への動きは、激しく変動し多くの問題に直面している現在の世界にはわずかしか見ることにはできないと思われるかもしれない。たしかにそれはかすかな可能性でしかない。しかし、人類史を回顧するならば、1万年前の農業の発明以来の伝統的社会の歴史が終わり、200年ほど前に本格化した近代化のなかで諸民族を統合した国民国家が形成され、国民に市民権が保障されるようになり、さらに市民権の種類と適用範囲が拡大し、それらが国民を超えていく方向性を展望できるのも確かである。もちろん、直面する諸問題はあまりに多く、さらには解決困難なものばかりである。この講義では、人類史を総括しつつ、それらの問題の内容、原因と対応策について解説し、世界市民であるための基礎知識を提供したい。

【学習目標】

この講義は、本学の建学の理念でもある世界市民の育成に向けて、その基本となる世界市民の基礎知識を習得してもらうことを目的としている。世界市民とは現在のところは理想にとどまっているが、これこそ現代世界が目標とすべきものであり、現代に生きる人々が世界市民となるべく自己形成し役割遂行することが期待される。そのための基礎知識として、この講義ではまず、目標となる世界市民の理念ないし理想を、その歴史的形成過程をたどりつつ示し、次いでその理想の実現を妨げている現代世界の主要問題の現状、原因、対策を可能な限りわかりやすく示したい。以上のように世界事情を解説するなかで、市民権すなわち人権や、これも本学建学の理念の基礎にあるキリスト教や、現代世界での大学生の役割などについても理解を深めていただけるであろう。

【講義計画】

- 第1回 序論：世界市民とは誰のことか
- 第2回 貧困、不平等、飢餓と資本主義
- 第3回 産業化と環境破壊
- 第4回 国民国家、民族、民主主義
- 第5回 戦争、紛争、テロリズム
- 第6回 宗教対立と原理主義
- 第7回 グローバル犯罪
- 第8回 人身売買と児童労働
- 第9回 移民、難民、先住民
- 第10回 世界市民とアイデンティティ問題
- 第11回 比較文化と異文化理解
- 第12回 グローバルな危機管理
- 第13回 まとめと補足(1)
- 第14回 まとめと補足(2)
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%
学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論論述問題）の結果によって評価する。

【教科書】

特に使用しない。配布資料によって授業を進める。

【参考文献】

テーマごとに必要に応じてその都度紹介する。

科目名	クラス	講義区分
世界市民－世界についての想像力 01 <春>		
岩 津 洋 二	2単位	

【講義概要】

「世界市民」の定義は簡単ではない。しかし、他の世界、他の人生について思い描く意欲と能力がなければ、世界市民であることができないのは確実である。想像力は、世界市民の前提であるだけでなく、人間が自由であることのあかしでもある。

この講義は、今日の日本社会では眠りがちな想像力を刺激して、自分の世界を広げ、自己中心世界のくびきから脱するきっかけとなることをめざしている。他の世界、他の人生を描いたドキュメンタリーなどのさまざまな素材を利用しながら、この目的を追求したい。

【学習目標】

講義を受動的に受講するのではなく、提示される素材をきっかけとして他の世界をみずから疑似体験することをめざす。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 想像力とは何か
- 第3回 ジョン・レノン『イマジン』
- 第4回 想像力から行動へ
- 第5回 他者の視線
- 第6回 視線の交流
- 第7回 想像力が広げる世界
- 第8回 歴史の認識
- 第9回 想像力の練習
- 第10回 飢える人々
- 第11回 想像力に導かれて
- 第12回 アフリカの多様性
- 第13回 子どもたちの未来
- 第14回 総括

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

毎回の授業中に与えられた課題に対応したテーマの小レポートの提出を求める。評価はレポートの提出回数と内容によって決定される。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科目名	クラス	講義区分
世界市民－世界についての想像力 02 <秋>		
岩 津 洋 二	2単位	

【講義概要】

「世界市民」の定義は簡単ではない。しかし、他の世界、他の人生について思い描く意欲と能力がなければ、世界市民であることができないのは確実である。想像力は、世界市民の前提であるだけでなく、人間が自由であることのあかしでもある。

この講義は、今日の日本社会では眠りがちな想像力を刺激して、自分の世界を広げ、自己中心世界のくびきから脱するきっかけとなることをめざしている。他の世界、他の人生を描いたドキュメンタリーなどのさまざまな素材を利用しながら、この目的を追求したい。

【学習目標】

講義を受動的に受講するのではなく、提示される素材をきっかけとして他の世界をみずから疑似体験することをめざす。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 想像力とは何か
- 第3回 ジョン・レノン『イマジン』
- 第4回 想像力から行動へ
- 第5回 他者の視線
- 第6回 視線の交流
- 第7回 想像力が広げる世界
- 第8回 歴史の認識
- 第9回 想像力の練習
- 第10回 飢える人々
- 第11回 想像力に導かれて
- 第12回 アフリカの多様性
- 第13回 子どもたちの未来
- 第14回 総括

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

毎回の授業中に与えられた課題に対応したテーマの小レポートの提出を求める。評価はレポートの提出回数と内容によって決定される。

【参考文献】

授業中に適宜指示する

さ
行

科目名 クラス 講義区分		
世界市民－世界を理解するためのメディア 01 <春>		
境	真理子	2単位

【講義概要】

私たちの暮らしは、メディアからの情報に取り巻かれ、大きな影響を受けています。一方、メディアの特性については、国語の読み書きや算数のように学校の科目として学ぶことはあまりありません。メディアが作りあげる世界の中で、私たちはどうすればその透明な影響力を認識し、より自覚的で主体的に生きていくことができるのでしょうか。デジタル化が進展するなか、今日のメディア社会を、世界市民としてより豊かに生きるために、ひとりひとりにメディア・リテラシーが求められています。

【学習目標】

授業では、私たちが無意識のうちに接しているメディアについて、その文化的、社会的な特性を問い直します。そして、国内外で取り組まれているメディアを利用したさまざまな表現や教育の活動や学びながら、基礎的な概念を学ぶとともに、実践的で応用できるメディア知の獲得を目指します。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション、全体ガイダンス、概論
- 第2回 メディアにとりまかれた世界と私たちの関係
- 第3回 メディア論の基本的な位置
- 第4回 メディア・リテラシーの活動
- 第5回 マスメディアの特性と現状
- 第6回 メディア教育、世界の現場から1
- 第7回 メディア教育、世界の現場から2
- 第8回 さまざまなメディアとリテラシー
- 第9回 ニュースが生まれる過程
- 第10回 コマーシャルと番組の読み解き
- 第11回 市民による草の根のメディア表現
- 第12回 パブリック・アクセスとインターネットメディア
- 第13回 デジタル社会とウェブのリテラシー
- 第14回 ユビキタス社会と情報

【成績評価の方法】

試験 55% レポート 25% 出席 20%
出席、小レポートと期末試験による評価。リアクションシートの意見もレポートの一部として評価に加味される。

【参考文献】

- 「メディア・プラクティス 媒体を創って世界を変える」水越伸編 せりか書房2003
- 「メディア・リテラシーの工具箱：テレビを見る・つくる・読む」東京大学情報学環メルプロジェクト 日本民間放送連盟編 東京大学出版会 2005
- 「メディア・リテラシー：世界の現場から」菅谷明子著 岩波書店 2000
- 「メディア・リテラシー：マスメディアを読み解く」カナダ・オンタリオ州教育省編 リバルタ出版 1992

【備考】

映像を教材として多用する。ジャーナルな話題をそのつど内容に反映させ、ワークショップの手法も取り入れる。

科目名 クラス 講義区分		
世界市民－世界を理解するためのメディア 02 <秋>		
境	真理子	2単位

【講義概要】

私たちの暮らしは、メディアからの情報に取り巻かれ、大きな影響を受けています。一方、メディアの特性については、国語の読み書きや算数のように学校の科目として学ぶことはあまりありません。メディアが作りあげる世界の中で、私たちはどうすればその透明な影響力を認識し、より自覚的で主体的に生きていくことができるのでしょうか。デジタル化が進展するなか、今日のメディア社会を、世界市民としてより豊かに生きるために、ひとりひとりにメディア・リテラシーが求められています。

【学習目標】

授業では、私たちが無意識のうちに接しているメディアについて、その文化的、社会的な特性を問い直します。そして、国内外で取り組まれているメディアを利用したさまざまな表現や教育の活動や学びながら、基礎的な概念を学ぶとともに、実践的で応用できるメディア知の獲得を目指します。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション、全体ガイダンス、概論
- 第2回 メディアにとりまかれた世界と私たちの関係
- 第3回 メディア論の基本的な位置
- 第4回 メディア・リテラシーの活動
- 第5回 マスメディアの特性と現状
- 第6回 メディア教育、世界の現場から1
- 第7回 メディア教育、世界の現場から2
- 第8回 さまざまなメディアとリテラシー
- 第9回 ニュースが生まれる過程
- 第10回 コマーシャルと番組の読み解き
- 第11回 市民による草の根のメディア表現
- 第12回 パブリック・アクセスとインターネットメディア
- 第13回 デジタル社会とウェブのリテラシー
- 第14回 ユビキタス社会と情報

【成績評価の方法】

試験 55% レポート 25% 出席 20%
出席、小レポートと期末試験による評価。リアクションシートの意見もレポートの一部として評価に加味される。

【参考文献】

- 「メディア・プラクティス 媒体を創って世界を変える」水越伸編 せりか書房2003
- 「メディア・リテラシーの工具箱：テレビを見る・つくる・読む」東京大学情報学環メルプロジェクト 日本民間放送連盟編 東京大学出版会 2005
- 「メディア・リテラシー：世界の現場から」菅谷明子著 岩波書店 2000
- 「メディア・リテラシー：マスメディアを読み解く」カナダ・オンタリオ州教育省編 リバルタ出版 1992

【備考】

映像を教材として多用する。ジャーナルな話題をそのつど内容に反映させ、ワークショップの手法も取り入れる。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－戦争の世界史 01<春>	
軽部 恵子	2単位

【講義概要】

人類の歴史は戦争の歴史ともいえます。戦争は歴史の流れに大きな影響を与えてきました。また、人類は大規模な戦争を経験する度に、戦争を防ぐ仕組みを作ろうと試みました。しかし、深刻な武力紛争は今も世界各地で発生しています。

この講義では、17世紀以降に起きた主要な国際紛争とくに武力紛争を通じて、人類の歩みを振り返ります。受講生は、毎回の講義を真剣に聴くことはもちろん、日頃から教科書を使って予習・復習をしてください。

世界史、とくに近現代史の基礎知識は、学部・学科・専攻を問わず、大学での勉強にたいへん重要です。大学生に必要な世界史の教養を身に付けたい人は、この講義をぜひ履修してください。講義計画は国際機構論の前半および国際法の導入部分と似ていますが、題材の取り上げ方は大きく異なります。

国際問題に関する重大ニュースは、随時取り上げます。また、ドキュメンタリー・フィルムと映画、海外メディア・外国政府・国連等のホームページも教材として積極的に使用します。

【学習目標】

- (1) 17世紀以降の世界史の動きを把握する。
- (2) 世界の政治・経済・社会を大きく変革させた主要な国際紛争の原因と背景を理解する。
- (3) 科学技術の進歩とグローバル化が国際紛争をどのように変化させたか考察する。

【講義計画】

- 第1回 「戦争」とは何か
- 第2回 宗教改革と三十年戦争
- 第3回 アメリカ独立戦争
- 第4回 フランス革命
- 第5回 ナポレオン戦争
- 第6回 日清戦争と日露戦争
- 第7回 第一次世界大戦
- 第8回 第二次世界大戦(1) ヨーロッパ
- 第9回 第二次世界大戦(2) アジア
- 第10回 冷戦(1) ヨーロッパ
- 第11回 冷戦(2) アジア
- 第12回 冷戦(3) 核兵器と宇宙開発競争
- 第13回 冷戦後の世界(1) 民族紛争の再燃
- 第14回 冷戦後の世界(2) 対テロ戦争からイラク戦争へ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

教室内で出席票を配布するのは受講生が講義への感想や質問、要望等を書くため、「出席点」にはなりません。また、授業中に行う小テストは成績評価に一切関係ありません。しかし、「世界市民」の理念を学ぶのに出席は大前提です。

【教科書】

成美堂出版編集部編『一冊でわかるイラストでわかる図解世界史』成美堂出版
教科書は毎回講義で使用します。

【参考文献】

- ※「戦争の世界史」(秋学期)、「国際機構論」(春学期)、および「国際法」(秋学期)のページも見て下さい。
- ・水村光男監修『この「戦い」が世界史を変えた』青春出版社 2003年
 - ・まがいまさこ、堀洋子『もう一度学びたい世界の歴史』西東社 2005年
 - ・祝田秀全『忘れてしまった高校の世界史を復習する本』中経出版 2003年
 - ・渡辺和子監修『もう一度学びたい世界の宗教』西東社 2005年
 - ・一校舎社会研究会編『いちばんやさしい! 三大宗教がわかる本』永岡書店 2006年
 - ・青木裕司『知識ゼロからの現代史入門』幻冬舎 2002年
 - ・石井美樹子『図説ヨーロッパの王妃』河出書房新社 2006年
 - ・J. エリス『機関銃の世界史』平凡社 2008年
 - ・加藤雅彦『図説ハプスブルク帝国』河出書房新社 1995年
 - ・加藤雅彦『図説ヨーロッパの王朝』河出書房新社 2005年
 - ・芝生瑞和編『図説フランス革命』河出書房新社 1989年

- ・国際地理学会『国旗と地図』国際地理学会 2004年
- ・辻原康夫『図説国旗の世界史』河出書房新社 2003年
- ・中野京子『名画で読み解くハプスブルク家12の物語』光文社 2008年
- ・浜本隆志『拷問と処刑の西洋史』新潮社 2007年

【備考】

- ①履修登録する前に、教員作成の「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。
- ②教室内で毎回プリントを配布しますが、遅刻者・欠席者に再配布はありません。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－戦争の世界史 02 <秋>	
軽部 恵子	2単位

【講義概要】

人類の歴史は戦争の歴史ともいえます。戦争は歴史の流れに大きな影響を与えてきました。また、人類は大規模な戦争を経験する度に、戦争を防ぐ仕組みを作ろうと試みました。しかし、深刻な武力紛争は今も世界各地で発生しています。

この講義では、17世紀以降に起きた主要な国際紛争とくに武力紛争を通じて、人類の歩みを振り返ります。受講生は、毎回の講義を真剣に聴くことはもちろん、日頃から教科書を使って予習・復習をしてください。

世界史、とくに近現代史の基礎知識は、学部・学科・専攻を問わず、大学での勉強にたいへん重要です。大学生に必要な世界史の教養を身に付けたい人は、この講義をぜひ履修してください。講義計画は国際機構論の前半および国際法の導入部分と似ていますが、題材の取り上げ方は大きく異なります。

国際問題に関する重大ニュースは、随時取り上げます。また、ドキュメンタリー・フィルムと映画、海外メディア・外国政府・国連等のホームページも教材として積極的に使用します。

【学習目標】

- (1) 17世紀以降の世界史の動きを把握する。
- (2) 世界の政治・経済・社会を大きく変革させた主要な国際紛争の原因と背景を理解する。
- (3) 科学技術の進歩とグローバリゼーションが国際紛争をどのように変化させたか考察する。

【講義計画】

- 第1回 「戦争」とは何か
- 第2回 宗教改革と三十年戦争
- 第3回 アメリカ独立戦争
- 第4回 フランス革命
- 第5回 ナポレオン戦争
- 第6回 日清戦争と日露戦争
- 第7回 第一次世界大戦
- 第8回 第二次世界大戦(1) ヨーロッパ
- 第9回 第二次世界大戦(2) アジア
- 第10回 冷戦(1) ヨーロッパ
- 第11回 冷戦(2) アジア
- 第12回 冷戦(3) 核兵器と宇宙開発競争
- 第13回 冷戦後の世界(1) 民族紛争の再燃
- 第14回 冷戦後の世界(2) 対テロ戦争からイラク戦争へ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

教室内で出席票を配布するのは受講生が講義への感想や質問、要望等を書くためで、「出席点」にはなりません。また、授業中に行う小テストは成績評価に一切関係ありません。しかし、「世界市民」の理念を学ぶのに出席は大前提です。

【教科書】

成美堂出版編集部編 一冊でわかるイラストでわかる図解世界史 成美堂出版
教科書は毎回講義で使用します。

【参考文献】

- ※「世界市民：戦争の世界史」（春学期）、「国際機構論」（春学期）、および「国際法」（秋学期）のページも見て下さい。
- ・ニュース・リテラシー研究所編著『図解まるわかり時事用語2009 →2010年版』新星出版社 2009年
 - ・天井勝海監修『世界遺産 建築の不思議』ナツメ社 2007年
 - ・伊藤章治『ジャガイモの世界史：歴史を動かした「貧者のパン」』中央公論新社 2008年
 - ・臼井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』中央公論社 1992年
 - ・S. ジョンソン『世界野菜読本：トマト、ジャガイモ、トウモロコシ、トウガラシ』晶文社 1999年
 - ・T. スタンダーズ『世界を変えた6つの飲み物：ビール、ワイン、蒸留酒、コーヒー、紅茶、コーラが語るもうひとつの歴史』インターシフト 2007年
 - ・千足伸行監修『すぐわかるギリシア・ローマ神話の絵画』東京美術 2006年
 - ・千足伸行監修『すぐわかるキリスト教絵画の見方』東京美術 2005年

- ・杉本智俊『図説聖書考古学物語 旧約篇』河出書房新社 2008年
- ・山本博文『こんなに変わった歴史教科書』東京書籍 2008年

【備考】

- ①履修登録する前に、教員作成の「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。
- ②教室内で毎回プリントを配布しますが、遅刻者・欠席者に再配布はありません。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－多民族国家中国の実相 <秋>	
原 山 煌	2単位

【講義概要】

2008年夏、中華人民共和国の威信をかけて、北京オリンピックが華々しく開催されました。しかしその際、現在中国が抱えている幾つもの矛盾が露呈され、私たちに少なからぬショックを与えました。そのなかでも、民族問題はかなり深刻な状況にあり、今後の予断を許しません。超大国中国の隣人として、私たちはそのそうした現状をしっかりと理解しておくことがぜひ必要と考えます。

【学習目標】

上記の問題を、各民族ごとに歴史的に振り返り、それぞれが抱える現段階での問題点を洗い出します。新聞記事や映像史料なども使って、できるだけ実証的にこの厄介な問題に迫ります。毎回、講義終了時に小テストをして、出席状況と理解度を把握します。小テスト用紙の余白を使って、質問や意見を書くことができます。次回冒頭に、かならず回答します。このようにできるだけ、双方向の授業になるよう工夫します。

【講義計画】

- 第1回 この授業のオリエンテーション
- 第2回 中華人民共和国の諸民族の現状
- 第3回 東夷・南蛮・西戎・北狄
- 第4回 中華からの視野
- 第5回 清朝の諸民族統治政策①
- 第6回 清朝の諸民族統治政策②
- 第7回 中華民国の民族政策
- 第8回 中華人民共和国の民族政策の特色①
- 第9回 中華人民共和国の民族政策の特色②
- 第10回 ソ連と中国：社会主義国両大国の民族政策の相違
- 第11回 西藏惨案：チベットの場合
- 第12回 ダライ・ラマはどうするのか？
- 第13回 国際テロリスト集団という罪状：ウイグルの場合
- 第14回 「少数民族」というまやかし
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 30%
上記小テスト解答の成績評価における比率は20%。

【教科書】

特に指定しない。頻繁に配布資料を用意するので、毎回必ず所持すること。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－天皇制について考える <秋>	
鈴木 健	2単位

【講義概要】

今日、世界の先進資本主義諸国の政治の現実に比して、日本のそれにはいくつかの「異常」な特徴がある。第二次世界大戦における日本の侵略行為を否定する異常、大戦後の日米関係における対米従属をかたくなに保持しようとする異常、大企業の利益を至上命題とする異常などである。いずれも大書特筆される異常ぶりであるが、その異常さにおいてかの大戦が侵略戦争であったことを否定する異常に止めを刺す。アジア諸国との関係悪化を承知でなお靖国参拝を強行した小泉元首相の政治行為が、あの戦争の侵略的性格を否定する異常の具体的な表現の一つの形であることは言うまでもない。この異常は何によるのか。

本講義では、この異常の根源をなすと考えられる天皇制をとりあげ、それが日本の支配層を構成する諸勢力の制度的・思想的基盤として、現にどのように機能しているのか、そもそも歴史的にどのように機能してきたのかという問題について考えてみることにする。

【学習目標】

本講義は、天皇制が日本列島における王権支配の特殊な形態として確立、定着し、時々の「実権」を掌握する者たちによって支配の正当化の根拠として利用されてきたという事実、ならびに、そのようなものとして利用されたのはなぜかという問題に関する受講生の理解を明瞭にすることを目標としている。天皇制について無自覚なままにイデオロギー注入されてきた受講生の意識の中に、天皇制に関する知的転換を惹き起こすことを目標としていると言い換えても良い。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンスー今、天皇制について考えるのはなぜか、古代の天皇制①
- 第2回 古代の天皇制②
- 第3回 古代の天皇制③
- 第4回 古代の天皇制④
- 第5回 古代の天皇制⑤
- 第6回 中世の天皇制①
- 第7回 中世の天皇制②
- 第8回 中世の天皇制③
- 第9回 近世の天皇制①
- 第10回 近世の天皇制②
- 第11回 近世の天皇制③
- 第12回 近現代の天皇制①
- 第13回 近現代の天皇制②
- 第14回 近現代の天皇制③

【成績評価の方法】

講義中に5回のテストを行い、3回以上の受験と6割以上の得点によって合格とする。

【参考文献】

- ①歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』（東大出版会、2008年）
- ②吉田孝『歴史の中の天皇』（岩波書店）
- ③吉田裕『昭和天皇の終戦史』（岩波書店）

【備考】

参考文献として掲げた①②を中心に担当者がレジュメを用意して講義する。関心のある人は、参考文献を入手し、読み進めておくことを希望する。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－日本とアメリカの刑事司法制度 <春>	
大久保 正 人	2単位

【講義概要】

これまで、多くの市民にとって刑事司法制度（刑事手続・刑事裁判等）は、裁判官・検察官・弁護人という法律の専門家だけが関与するものであり、我々の日常生活とは関係のない「他人事」であると考えられていました。しかし、裁判員制度が導入された社会においては、一般市民であれ、刑事司法制度に無関心であることは許されず、その「準備（心構え）」をしておくことが必要になってきます。

本講義においては、「裁判員」時代の一般市民に必要とされる、刑事司法制度の「基礎」を学習していきます。

【学習目標】

本講義は、刑事司法制度を初めて学ぶ学生を対象として、制度の「全体像」を把握することを目標とします（細かい「論点」の研究は行いません）。

毎回、詳細なレジュメを配布します。板書は一切しませんので、講義中は、その内容について、頭の中で「イメージ」を膨らませてみてください。

【講義計画】

- 第1回 はじめに（刑事司法手続とは）
- 第2回 裁判員制度（1） 基礎知識編
- 第3回 裁判員制度（2） 実践編
- 第4回 裁判員制度（3） 世界の裁判制度編
- 第5回 アメリカの刑事手続（1） 概要
- 第6回 アメリカの刑事手続（2） 陪審制度
- 第7回 アメリカの刑事手続（3） 司法取引
- 第8回 刑罰制度（1） 懲役・禁錮・罰金、犯罪者の処遇
- 第9回 刑罰制度（2） 死刑
- 第10回 少年非行・少年犯罪（少年手続）
- 第11回 精神障害者の犯罪（刑法第39条）
- 第12回 犯罪捜査（1） 犯罪と捜査
- 第13回 犯罪捜査（2） 科学捜査・プロファイリング
- 第14回 おわりに（総復習）
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%

原則として「試験」のみで評価する予定ですが、状況によっては、「出席」を考慮する可能性もあります。

【参考文献】

テキストは、使用しません（レジュメを配布）。参考文献は、必要に応じて紹介します。

科目名 クラス 講義区分	
世界市民－インドネシアの児童福祉とIWC 01<春> 世界市民－インドネシアの児童福祉とIWC 02<秋>	
林 陸 雄	2単位

【講義概要】

本学は20数年来にわたって、インドネシアのバリ島において国際ワークキャンプを実施してきた。その活動を通じて、バリ・プロテスタント・キリスト教会による社会事業を支援し、貧困家庭児童の福祉と教育に貢献してきた。その過程で明らかになってきた児童問題の実態を問い、その改善策について模索する。この学習を通じて世界の市民としての自己形成に資する機会としたい。

【学習目標】

1. 建学の理念に謳われているキリスト教精神の根本を理解する。
2. 人権問題についての正確な知識と人権尊重の意識を形成する。
3. グローバルな視野を養成するために、多様な問題に関わる世界事情についての正確な知識を習得する。

【講義計画】

- 第1回 授業開き：学習目標、概要、評価について説明
- 第2回 「世界市民」とは
- 第3回 インドネシアの経済事情
- 第4回 インドネシアにおける児童問題
- 第5回 バリ・プロテスタント・キリスト教会が運営する社会事業（教育、福祉、MBM）
- 第6回 国際ワークキャンプ・インドネシアとは
- 第7回 児童養護施設の子どもたち
- 第8回 子どもたちの発育状況と体力
- 第9回 子どもたちの食事内容、栄養分析
- 第10回 インドネシアの学校保健制度
- 第11回 インドネシアの補食プログラム
- 第12回 インドネシアの教育制度
- 第13回 不就学問題
- 第14回 学校外教育プログラム

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%

科目名 クラス 講義区分

世界体験入門 <春>

小池 誠

2単位

【講義概要】

海外事情および異文化への対処法など海外における生活上必要となる基本的な事項を受講者に講義するだけでなく、留学と海外ワークキャンプなどを経験した在學生と海外から本学に来ている留學生の話をお聞かせします。さらに世界各地で実際に活躍している卒業生、NGOなどで国際協力に関わっている人などをゲスト講師として招き、海外での活動と生活に関する実体験に基づく話を受講者に伝えたい。学期中に数回「前回までのまとめ」を設定し、前回までの講義の振り返りと、ディスカッションのための時間を取る予定です。

【学習目標】

この講義は、今後、留学と海外研修、また海外での就職などにつながるような動機付けのための科目です。この講義を通して世界への関心を深めることを目標とします。そのためには、単に受身に講義を聴くだけでなく、積極的に講義に参加してもらいたい。

【講義計画】

- 第1回 世界を体験する方法：授業のガイダンス
- 第2回 インドネシア国際ワークキャンプの報告
- 第3回 海外研修セミナーの報告
- 第4回 前回までのまとめ
- 第5回 留学のすすめ
- 第6回 留學生との交流
- 第7回 前回までのまとめ
- 第8回 生のイタリアに触れる
- 第9回 ニューヨークでの留学体験
- 第10回 前回までのまとめ
- 第11回 海外青年協力隊の活動
- 第12回 国際協力と開発とは何か(1)
- 第13回 国際協力と開発とは何か(2)
- 第14回 総まとめ

【成績評価の方法】

試験 65% レポート 10% 出席 25%
毎回講義の終了時に提出する出席カード（コメントを書く）と、課題レポートの提出、期末試験の成績を総合的に評価して、成績を決めます。

【参考文献】

必要に応じて講義中に紹介します。

【備考】

インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分

世界の英語 <春集>

野原 康弘

4単位

【講義概要】

最近、グローバル化が進行する中、英語は世界中で最も広く通用する国際言語の地位を獲得している。英語を公用語としているアフリカの国々もあるし、インドのように準公用語にしているところもある。英語の国際化は、一方で英語の多様化を招き、いろいろな英語が登場している。ひと昔前までは、主要な英語はイギリス英語とアメリカ英語であり、その違いだけが注目されていた。しかし今では、イングランドの周辺だけでも、スコットランド英語、ウェールズ英語、アイルランド英語が独自性を強く示している。イングランドから遠く離れた地域にも、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、南アフリカ英語、インド英語、カナダ英語、シンガポール英語などが存在している。変わったところでは、「商取引」のために生じた簡略されたピジン英語がある。

元々一つであった英語が、それぞれの国や地域で、それぞれの歴史と文化の中で、その地域の言語と融合し、独自の発達を遂げていったわけである。この講義では、それぞれの英語の歴史的な背景と特徴を解説していくことにする。

【学習目標】

英語という言語の誕生と発展に関する簡単な歴史を理解すること。英語から生じた変種の英語の特徴をそれぞれ把握すること。標準英語と変種の英語がこれからどのように変化していくのかを考察すること。

【講義計画】

- 第1回 授業計画の詳しい説明
(講義の順番は変更する場合があります)
- 第2回 インド・ヨーロッパ語
- 第3回 英語の先祖
- 第4回 ブリテン島のケルト人
- 第5回 ローマの支配
- 第6回 アングロ・サクソン人
- 第7回 ヴァイキングの侵略
- 第8回 ノルマン人の征服
- 第9回 英語の復活
- 第10回 英語の海外進出とピジン英語
- 第11回 英語の方言
- 第12回 ウェールズ英語(1)
- 第13回 ウェールズ英語(2)
- 第14回 スコットランド英語(1)
- 第15回 スコットランド英語(2)
- 第16回 アイルランド英語(1)
- 第17回 アイルランド英語(2)
- 第18回 アメリカ英語(1)
- 第19回 アメリカ英語(2)
- 第20回 カナダ英語(1)
- 第21回 カナダ英語(2)
- 第22回 オーストラリア英語(1)
- 第23回 オーストラリア英語(2)
- 第24回 南アフリカ英語
- 第25回 インド英語(1)
- 第26回 インド英語(2)
- 第27回 シンガポール英語
- 第28回 英語の将来
- 第29回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%
学期末試験(70%)
出席重視(全回出席で30%)：20回以上は必ず出席のこと。
欠欠以外の欠席はいかなる理由も認めない。

第1回目の講義で詳しく説明するので必ず出席のこと。

【参考文献】

授業中に参考文献や参考資料など紹介する。

科目名	クラス	講義区分
専修基礎演習	01	<春>
専修基礎演習	13	<秋>
Michael Carroll	2単位	

【講義概要】

The course will be held entirely in English, and the theme will be Study Abroad, Language and Culture.
授業はすべて英語で行う。海外留学と文化と言葉をテーマとする。

【学習目標】

The purpose of this class is to build on the experiences of the students who have returned from overseas, to consolidate English language skills, and to develop oral presentation and essay writing skills.

この演習が掲げる目標は次の通り。(1)特待生留学で得た経験をいかす。(2)英語運用能力の定着をはかる。(3)プレゼンテーション及びエッセイ・ライティングのスキルに磨きをかける。

【講義計画】

- 第1回 Introduction to the course
- 第2回 Presentation Skills I
- 第3回 Presentation 1
- 第4回 Presentation and discussion skills
- 第5回 Presentation 2
- 第6回 Lecture Notetaking
- 第7回 Presentation 3; Discussion
- 第8回 Lecture Notetaking
- 第9回 Presentation 4; Discussion
- 第10回 Lecture Notetaking
- 第11回 Presentation 5; Discussion
- 第12回 Presentation 6; Discussion
- 第13回 Evaluation and summary
- 第14回 Discussion: Where to next?

【成績評価の方法】

Oral presentations (33%)
Essays/reports (33%)
weekly journal/vocabulary notebook (33%)
No more than three absences will be allowed.
欠席3回以上の場合、単位は認められない。

【備考】

〔08L生〕のみ履修可

科目名	クラス	講義区分
専修基礎演習	02	<春>
専修基礎演習	03	<春>
専修基礎演習	04	<春>
専修基礎演習	05	<春>
専修基礎演習	06	<春>
岩津洋二	小野良子	佐々木英哲
Annie Yamasaki		
2単位		

【講義概要】

この演習では、専門分野の異なる教員が、それぞれの守備範囲に応じて具体的な事例をいくつか取り上げ、その事例をもとに授業を展開していく運びとなる。担当教員は受講生が提出した課題に対してフィードバックを行い、受講生がアカデミック・リテラシーを容易に修得できるよう取り計らう。

(1)学問の方法と関連知識を修得する。

日本という極東で生活する者がヨーロッパ・アメリカ文化を研究する今日的意義はどこにあるか、欧米文化をどのように読み解くことができるか、分析する何らかの方法はあるのか、どのようにしたら関連情報にアクセスできるのか、等について担当教員から手ほどきを受ける。

(2)プレゼンテーションの技術を身につける。

研究対象をヨーロッパ・アメリカ文化に据え、各人はその問題点をさぐる。そのうえで、口頭発表を行い、議論し、論文の形でまとめあげる。このような一連の作業に必要な技術を身につける。

【学習目標】

ヨーロッパ・アメリカ文化を研究対象に据えたいうえで、アカデミック・リテラシーの修得を目指す。すなわち(1)学問の方法と関連知識、(2)プレゼンテーションの技術を修得する。

【講義計画】

- 第1回 ヨーロッパ・アメリカ文化の今日的状況(1)
- 第2回 ヨーロッパ・アメリカ文化の今日的状況(2)
- 第3回 ヨーロッパ・アメリカ文化の歴史的背景(1)
- 第4回 ヨーロッパ・アメリカ文化の歴史的背景(2)
- 第5回 ヨーロッパ・アメリカ文化を分析するツール(1)
- 第6回 ヨーロッパ・アメリカ文化を分析するツール(2)
- 第7回 ヨーロッパ・アメリカ文化を分析するツール(3)
- 第8回 論文の読み方(1)
- 第9回 論文の読み方(2)
- 第10回 レポート論文作成の技術と担当教員によるフィードバック(1)
- 第11回 レポート論文作成の技術と担当教員によるフィードバック(2)
- 第12回 口頭発表、担当教員によるコメント、ディスカッション(1)
- 第13回 口頭発表、担当教員によるコメント、ディスカッション(2)
- 第14回 口頭発表、担当教員によるコメント、ディスカッション(3)

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 40% 出席 40%
レポートには口頭発表も含まれる。出席とは、単に教室に「いる」ということではない。受講生には積極的に参加したかどうか問われることになる。平常試験では、その学問分野に特有の用語や事象を説明するよう求められることがある。また、担当者によっては平常試験を行わない専修基礎演習もある。その場合は、レポート、出席の配分が多くなる。

【備考】

〔08L生〕のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
専修基礎演習 07 <春> 専修基礎演習 08 <春>	
青野 正明 Philip Billingsley	2単位

【講義概要】

近代になって日本は欧米型の近代化を推し進め、さらに戦争・植民地支配を経験することで、人びとの間では「脱亜入欧」（アジアを脱して欧米に入るという意味）の考え・心性が強まり今日にまで至っている。社会に吹いているこの「脱亜入欧」という逆風の中にあつて、あえてアジア文化専修を志望した受講生の熱意に応えるべく、この授業ではアジアを学ぶ意義を織り込ませながらアジア諸地域に関する基礎知識を習得する。それに加え、専門的な学習を進めるために必要な文献検索やプレゼンテーションの方法、レポート作成の技法も習得する。

【学習目標】

アジア諸地域に関する基礎知識、および専門的学習のための文献検索・プレゼンテーション・レポート作成の技法を習得すること。

【講義計画】

第1回 まず前半では、「1. アジアとは何か」、「2. 日本とアジアとのつながりの歴史」について講義を受け、それをもとに自分たちで調べ、その内容を口頭発表するという形で進める。その合間でより専門的な文献検索の方法や、プレゼンテーションのやり方も学んでいく。

「2. 日本とアジアとのつながりの歴史」の具体的な内容は次の通りである。

①近世までの時代の中でアジアとの交流に注目し、日本と関連のあった事項（地域、人物）を取り上げる。

②近代の戦争や植民地支配の知識とともに、近代日本とアジアとの交流という側面も視野に入れ、「脱亜入欧」に関する知識に加えてアジアを学ぶ意義についても学ぶ。

③現代においてグローバル化が進む中で、アジア諸地域（アラブ諸国も加えて）がどのようなつながりを持っているか、その中で日本がどのような位置に置かれているのかを確かめる。また、アジア諸地域の経済的な発展と隣り合わせに存在する貧困の問題も考えてみる。

後半になると、前半で得たアジアに関する知識を復習・確認しながら、よりレベルの高いレポートを作成するために、その技法も学んでいく。剽窃の問題（盗作やコピペの問題）をしっかりと理解したうえで、注や参考文献の付け方・書き方を中心に引用・要約の方法を学ぶ。それをふまえて、引用・要約を用いた論理の展開の中で自分の考えを述べるという作業をおこなう。

【成績評価の方法】

出席状況、受講態度、口頭発表、レポートを総合的に評価する。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

特になし。

【備考】

〔08L生〕のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
専修基礎演習 09 <春> 専修基礎演習 10 <春>	
片平 幸 村中 淑子	2単位

【講義概要】

この授業ではJapanese studies専修で学ぶために必要な基礎的な知識を身につけることを目指します。日本語・日本文化を幅広い視野でより深く理解できるような文献の講読を中心におこないます。文献は分担をきめ、毎回、担当者の報告をもとに討議をおこないます。それらの報告と討議を通じて、発表の技術だけでなく、要約や分析する力などの習得も目指します。

【学習目標】

発表担当者は自分の担当する箇所の内容の要点をまとめ、レジュメを作成し、それをもとに報告を行います。担当者以外の参加者は該当箇所を前もって読んでおき、質問を用意し、クラス全体の討議に備えます。文献購読を中心に演習を進めますが、適宜、映像や新聞・雑誌記事も取り上げ、フィールド調査を行ったりして、討議の対象を広げる予定です。

【講義計画】

第1回 オリエンテーション 報告の分担をきめる

第2回 文献①の輪読 報告と討議

第3回 文献①の輪読 報告と討議

第4回 文献①の輪読 報告と討議

第5回 映像／雑誌・新聞記事を題材に議論

第6回 文献②の輪読 報告と討議

第7回 文献②の輪読 報告と討議

第8回 文献②の輪読 報告と討議

第9回 関連する場所へのフィールド調査

第10回 フィールド調査に関する討議

第11回 文献③の輪読 報告と討議

第12回 文献③の輪読 報告と討議

第13回 文献③の輪読 報告と討議

第14回 まとめ

【成績評価の方法】

出席、報告の内容、討議への参加度などを総合的に評価します。

【教科書】

適宜、指示する

【備考】

〔08L生〕のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
専修基礎演習 11 <春> 専修基礎演習 12 <春>	
境 真理子 佐 野 明 子	2単位

【講義概要】

現代社会の中で、メディアとの関わりを遮断して生きていくことはほとんど不可能である。その一方で、メディアのあり方自体も、人々がどのように情報を受容したり発信したりするかということと深く関りながら、社会の中で形作られてきたものでもある。

基礎演習では、2年次以降に専門的に学ぶことになる「メディア文化」について、専修の入門編となるような知識や技術を学ぶ。講義の形式も取り入れながら、専修で学ばねばならないこととその方法を具体的に指導し、メディアの基礎的知識が学べるよう設計される。

【学習目標】

メディア文化専修で取り上げるテーマ理解のため、基礎的な概念と方法を学習する。1年次に学んだレポート作成とプレゼンテーションの力をベースに、議論や実践を積み重ねながら、さまざまなメディアの特性を分析し、現代の諸問題への答えを探る分析力を培う。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション・ガイダンス
1回から14回まで、それぞれの内容は専修の入門編と位置づけられる。
- 第2回 文献検索
- 第3回 インターネットと情報検索
- 第4回 インターネットと検索エンジン
- 第5回 メディアと私たち① メディアと私たちの関係
- 第6回 メディアと私たち② 透明化・環境化するメディア
- 第7回 メディアと私たち③ メディア・リテラシーの基本的な考え
- 第8回 メディア遊び①メディア特性を知る、身近なメディア機器の利用
- 第9回 メディア遊び②メディア特性を知る、身近なメディア機器で作る
- 第10回 メディアと表現①
- 第11回 メディアと表現②
- 第12回 メディアの影響と効果
- 第13回 メディアの発信と責任
- 第14回 デジタルメディア社会・総合ディスカッション

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50% 出席 50%
出席と随時実施する小レポートの課題、および授業への積極的な参加を総合して評価する。

【教科書】

とくに指定しないが、授業の中で随時、資料を配布する。

【参考文献】

授業の中で随時、紹介する。

【備考】

〔08L生〕のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
専門資料論 <春>	
本 間 栄 男	2単位

【講義概要】

学術文献と一般資料との違い、分野による学術文献の特徴、学術文献の利用方法などについて解説する。

【講義計画】

- 第1回 はじめに：専門分野の特性
- 第2回 専門資料の種類と特徴
- 第3回 専門資料の種類と特徴
- 第4回 専門資料の種類と特徴
- 第5回 一次資料の活用演習
- 第6回 学術文献の歴史
- 第7回 学術文献の歴史
- 第8回 主要な二次資料
- 第9回 専門辞典と百科辞典
- 第10回 専門辞典と百科辞典
- 第11回 専門辞典と百科辞典
- 第12回 二次資料の活用演習
- 第13回 二次資料の活用演習
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席と複数のレポートで評価する。

【教科書】

テキストは使用しない。

【参考文献】

参考図書は各回毎に指示する。

科目名 クラス 講義区分

戦略管理会計 <秋>

谷 武 幸

2単位

【講義概要】

管理会計は経営戦略を実現するためのシステムです。管理会計では、経営戦略の実現に向けて将来を計画 (plan) し、このプランの実行 (do) プロセスにおいてプランの実現をチェック (check) し、必要なアクション (action) をとるという一連のサイクル、つまりPDCAサイクルを回します。このクラスでは、経営戦略に焦点を当てた管理会計システムつまり戦略管理会計システムを講義します。

【学習目標】

この講義では、戦略管理会計の基礎的知識の習得を目指します。これらをマスターしておけば、管理会計の最近のトピックスの学習に進むことができます。

【講義計画】

- 第1回 管理会計とマネジメントコントロール(1)
- 第2回 管理会計とマネジメントコントロール(2)
- 第3回 管理会計と経営戦略
- 第4回 長期経営計画
- 第5回 設備投資計画
- 第6回 ABC/ABM
- 第7回 価値連鎖分析
- 第8回 品質コストマネジメント
- 第9回 バランス・スコアカード(1)
- 第10回 バランス・スコアカード(2)
- 第11回 非営利組織の戦略マネジメント
- 第12回 原価企画(1)
- 第13回 原価企画(2)
- 第14回 環境コストマネジメント

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

谷 武幸 エssenシャル管理会計 (仮題) 中央経済社

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分

総合人間学 <通期>

小池 誠<春>
寺木 伸 明<秋>

4単位

【講義概要】

20世紀に多くの学問で専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれた。しかし、個別の「学」では、今日人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分答えることができない。21世紀には、学際的な人間に関する、新たな総合学が必要とされる。この講義は上述のような学問的要請に応じて、複数の講師によって行われる「インテグレーション」科目として実施される。内容は次のとおりである。

1. ヒト学入門：自然におけるヒトの位置、ヒトの行動の進化、ヒトの地理的多様性の理解
2. 人間思想史：東西の哲人が語った人間像の理解と、人間理解の哲学的アプローチの理解
3. 文学とヒューマニズム：愛・孤独・不安・挫折・苦悩等とヒューマニズム文学作品のもつ人間性へのメッセージの理解
4. 異文化理解：東西文化の特徴と地理的条件、民族性、文化摩擦と国際交流の理解
5. 国際人権論：アイヌをはじめとする世界の少数民族と先住民族の文化と歴史・現状、インド・日本などにおける身分差別の歴史と現状、人権に関わる国連の活動と国際法の理解

【学習目標】

自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育をめざす。ここで人間とは、生物種ヒトとその文化の双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学・技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムとは何かという人間学の目標にも迫っていききたい。

【講義計画】

- 第1回 授業の到達目標及びテーマ、授業の概要、授業計画、参考書、学生に対する評価等についての説明
- 第2回 自然におけるヒトの位置
- 第3回 ヒトの進化の道のり
- 第4回 ヒトの特徴：形態と行動
- 第5回 現代文明とヒト
- 第6回 脳科学の最前線
- 第7回 ギリシア人の「人間」理解
- 第8回 西洋近代思想の「人間」理解
- 第9回 イスラム教の「人間」理解
- 第10回 仏教の「人間」理解
- 第11回 儒教の「人間」理解
- 第12回 イエスの「人間」理解
- 第13回 苦しむ存在としての人間
- 第14回 “Outlaws” - 「法の外」で生きる人間：中国の場合
- 第15回 これまでのまとめと質疑応答
- 第16回 偏見と差別と人間
- 第17回 アイルランド移民の歌—故国喪失者の風景
- 第18回 ドストエフスキー “罪と罰”
- 第19回 英米のSF小説が描く “ヒューマニティ”
- 第20回 メルヴィル “白鯨” をめぐって
- 第21回 日本文学にみるヒューマニズム
- 第22回 江戸演劇の中の子ども
- 第23回 異文化へのアプローチ
- 第24回 学校における異文化理解
- 第25回 世界の人権問題
- 第26回 インドのカースト差別と日本の部落差別
- 第27回 国連における人権保障システム
- 第28回 多文化社会における人権教育のあり方
- 第29回 年間のまとめ。質疑応答
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

成績評価は、授業の内容に基づいて、どれだけ人間について総合的に理解できたかを基本的な観点とする。毎回、出席カードに講義の感想・意見・疑問などを書いて提出してもらう。これを出席点としてカウントする。学年末試験の点数を基本として、出席点を加味して総合的に評価する。

【参考文献】

尾本恵市『ヒトはいかにして生まれたか』岩波書店、1998年
 沖浦和光・寺木伸明・友永健三『アジアの身分制と差別』解放出版社、2004年
 その他、授業中に必要に応じて紹介する。

【備考】

インテグレーション科目
 通年の授業ではあるが、春学期・秋学期の担当者が異なるので注意する事。

科目名 クラス 講義区分

ソーシャルワーク演習Ⅰ 01<秋>

安原佳子

2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク演習Ⅰでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得するための基礎となる、自己覚知や、コミュニケーション技術について前半で学び、後半では、他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

ソーシャルワーク演習Ⅱの学びに繋がるように社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
 第2回 自己覚知 ①（自己理解：個人指導）
 第3回 自己覚知 ②（他者理解：集団指導）
 第4回 自己覚知 ③（自己理解、他者理解：振り返り）
 第5回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
 第6回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
 第7回 基本的な面接技術の習得 ①（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
 第8回 基本的な面接技術の習得 ②（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
 第9回 社会的排除について 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
 第10回 虐待（児童・高齢者） 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
 第11回 家庭内暴力（D.V） 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
 第12回 低所得者 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
 第13回 ホームレス 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
 第14回 上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】

ワークブック社会福祉援助技術演習Ⅰ 対人援助の基礎

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分

ソーシャルワーク演習Ⅰ 02 <秋>

伊藤 高章

2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク演習Ⅰでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得するための基礎となる、自己覚知や、コミュニケーション技術について前半で学び、後半では、他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

ソーシャルワーク演習Ⅱの学びに繋がるように社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
- 第2回 自己覚知 ①（自己理解：個人指導）
- 第3回 自己覚知 ②（他者理解：集団指導）
- 第4回 自己覚知 ③（自己理解、他者理解：振り返り）
- 第5回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
- 第6回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
- 第7回 基本的な面接技術の習得 ①（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
- 第8回 基本的な面接技術の習得 ②（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
- 第9回 社会的排除について 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第10回 虐待（児童・高齢者）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第11回 家庭内暴力（D.V）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第12回 低所得者 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第13回 ホームレス 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第14回 上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】

ワークブック 社会福祉援助技術演習Ⅰ 対人援助の基礎

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分

ソーシャルワーク演習Ⅰ 03 <秋>

川井 太加子

2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク演習Ⅰでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得するための基礎となる、自己覚知や、コミュニケーション技術について前半で学び、後半では、他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

ソーシャルワーク演習Ⅱの学びに繋がるように社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
- 第2回 自己覚知 ①（自己理解：個人指導）
- 第3回 自己覚知 ②（他者理解：集団指導）
- 第4回 自己覚知 ③（自己理解、他者理解：振り返り）
- 第5回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
- 第6回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
- 第7回 基本的な面接技術の習得 ①（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
- 第8回 基本的な面接技術の習得 ②（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
- 第9回 社会的排除について 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第10回 虐待（児童・高齢者）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第11回 家庭内暴力（D.V）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第12回 低所得者 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第13回 ホームレス 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第14回 上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】

ワークブック 社会福祉援助技術演習Ⅰ 対人援助の基礎

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
ソーシャルワーク演習Ⅰ 04 <秋>	
黒田 隆之	2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク演習Ⅰでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得するための基礎となる、自己覚知や、コミュニケーション技術について前半で学び、後半では、他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

ソーシャルワーク演習Ⅱの学びに繋がるように社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
- 第2回 自己覚知 ①（自己理解：個人指導）
- 第3回 自己覚知 ②（他者理解：集団指導）
- 第4回 自己覚知 ③（自己理解、他者理解：振り返り）
- 第5回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
- 第6回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
- 第7回 基本的な面接技術の習得 ①（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
- 第8回 基本的な面接技術の習得 ②（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
- 第9回 社会的排除について 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第10回 虐待（児童・高齢者）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第11回 家庭内暴力（D.V）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第12回 低所得者 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第13回 ホームレス 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第14回 上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【教科書】

授業時にお伝えます。

【参考文献】

ワークブック社会福祉援助技術演習Ⅰ 対人援助の基礎

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
ソーシャルワーク演習Ⅰ 05 <秋>	
福田 公教	2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク演習Ⅰでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得するための基礎となる、自己覚知や、コミュニケーション技術について前半で学び、後半では、他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

ソーシャルワーク演習Ⅱの学びに繋がるように社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
- 第2回 自己覚知 ①（自己理解：個人指導）
- 第3回 自己覚知 ②（他者理解：集団指導）
- 第4回 自己覚知 ③（自己理解、他者理解：振り返り）
- 第5回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
- 第6回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
- 第7回 基本的な面接技術の習得 ①（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
- 第8回 基本的な面接技術の習得 ②（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
- 第9回 社会的排除について 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第10回 虐待（児童・高齢者）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第11回 家庭内暴力（D.V）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第12回 低所得者 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第13回 ホームレス 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第14回 上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】

ワークブック社会福祉援助技術演習Ⅰ 対人援助の基礎

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
ソーシャルワーク演習Ⅰ 06 <秋>		
松 端 克 文	2単位	

【講義概要】

ソーシャルワーク演習Ⅰでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得するための基礎となる、自己覚知や、コミュニケーション技術について前半で学び、後半では、他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉専門職として実践に必要なとされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、実践活動に必要なとされるさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

ソーシャルワーク演習Ⅱの学びに繋がるように社会福祉専門職として実践に必要なとされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
- 第2回 自己覚知 ①（自己理解：個人指導）
- 第3回 自己覚知 ②（他者理解：集団指導）
- 第4回 自己覚知 ③（自己理解、他者理解：振り返り）
- 第5回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
- 第6回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
- 第7回 基本的な面接技術の習得 ①（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
- 第8回 基本的な面接技術の習得 ②（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
- 第9回 社会的排除について 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第10回 虐待（児童・高齢者）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第11回 家庭内暴力（D.V）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第12回 低所得者 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第13回 ホームレス 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第14回 上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】

ワークブック社会福祉援助技術演習Ⅰ 対人援助の基礎

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
ソーシャルワーク演習Ⅰ 07 <秋>		
丸 山 裕 子	2単位	

【講義概要】

ソーシャルワーク演習Ⅰでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術を習得するための基礎となる、自己覚知や、コミュニケーション技術について前半で学び、後半では、他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉専門職として実践に必要なとされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む。）を活用し、実践活動に必要なとされるさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

ソーシャルワーク演習Ⅱの学びに繋がるように社会福祉専門職として実践に必要なとされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク演習ⅠⅡⅢの目的と流れ）
- 第2回 自己覚知 ①（自己理解：個人指導）
- 第3回 自己覚知 ②（他者理解：集団指導）
- 第4回 自己覚知 ③（自己理解、他者理解：振り返り）
- 第5回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ①（各コミュニケーション方法の概要の説明：集団指導）
- 第6回 基本的なコミュニケーション技術の習得 ②（各コミュニケーションスキルの基礎を学ぶ：個別指導、集団指導）
- 第7回 基本的な面接技術の習得 ①（ビデオ教材を用いて具体的な利用者像を想定し具体的な援助方法を討議する。：集団指導）
- 第8回 基本的な面接技術の習得 ②（事例やビデオ教材などを用いて、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法についてロールプレイなどを行う：個別指導、集団指導）
- 第9回 社会的排除について 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第10回 虐待（児童・高齢者）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第11回 家庭内暴力（D.V）具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第12回 低所得者 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第13回 ホームレス 具体的な利用者像を想定した相談援助事例から面接技術を学ぶ（集団に対する相談援助事例を含む。）
- 第14回 上記以外の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）から学ぶ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】

ワークブック社会福祉援助技術演習Ⅰ 対人援助の基礎

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 01 <春>		
安原佳子	2単位	

【講義概要】

ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導Ⅰにおける個別指導及び集団指導の意義について

さまざまな場面を想定し、知識、技術を深められるようにする。また、実際に実習を行う施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（利用者理解含む。）を深める。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

- ①相談援助実習の意義について理解できる。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得できる。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できる。

【学習目標】

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク実習指導ⅠⅡⅢとソーシャルワーク実習の流れについて）
- 第2回 社会福祉とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第3回 社会福祉とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第4回 実習とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第5回 実習とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第6回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ①（施設職員の講義：集団指導）
- 第7回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ②（①の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第8回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ③（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第9回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④（③の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第10回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑤（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第11回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑥（⑤の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第12回 相談援助を必要とする人の理解 ①（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第13回 相談援助を必要とする人の理解 ②（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第14回 施設見学（施設見学で学んだことをレポートで提出）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況（原則として全出席）、授業への参加態度、課題の提出状況、実習先の評価を総合的に評価する。

【教科書】

実習のてびき（本校作成）
授業時に適宜資料配布

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 02 <春>		
伊藤高章	2単位	

【講義概要】

ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導Ⅰにおける個別指導及び集団指導の意義について

さまざまな場面を想定し、知識、技術を深められるようにする。また、実際に実習を行う施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（利用者理解含む。）を深める。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

- ①相談援助実習の意義について理解できる。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得できる。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できる。

【学習目標】

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク実習指導ⅠⅡⅢとソーシャルワーク実習の流れについて）
- 第2回 社会福祉とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第3回 社会福祉とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第4回 実習とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第5回 実習とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第6回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ①（施設職員の講義：集団指導）
- 第7回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ②（①の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第8回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ③（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第9回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④（③の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第10回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑤（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第11回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑥（⑤の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第12回 相談援助を必要とする人の理解 ①（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第13回 相談援助を必要とする人の理解 ②（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第14回 施設見学（施設見学で学んだことをレポートで提出）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況（原則として全出席）、授業への参加態度、課題の提出状況、実習先の評価を総合的に評価する。

【教科書】

実習のてびき（本校作成）
授業時に適宜資料配布

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 03<春>	
川 井 太加子	2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導Ⅰにおける個別指導及び集団指導の意義について

さまざまな場面を想定し、知識、技術を深められるようにする。また、実際に実習を行う施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（利用者理解含む。）を深める。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

- ①相談援助実習の意義について理解できる。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得できる。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できる。

【学習目標】

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク実習指導ⅠⅡⅢとソーシャルワーク実習の流れについて）
- 第2回 社会福祉とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第3回 社会福祉とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第4回 実習とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第5回 実習とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第6回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ①（施設職員の講義：集団指導）
- 第7回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ②（①の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第8回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ③（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第9回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④（③の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第10回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑤（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第11回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑥（⑤の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第12回 相談援助を必要とする人の理解 ①（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第13回 相談援助を必要とする人の理解 ②（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第14回 施設見学（施設見学で学んだことをレポートで提出）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況（原則として全出席）、授業への参加態度、課題の提出状況、実習先の評価を総合的に評価する。

【教科書】

実習のてびき（本校作成）
授業時に適宜資料配布

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 04<春>	
黒 田 隆 之	2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導Ⅰにおける個別指導及び集団指導の意義について

さまざまな場面を想定し、知識、技術を深められるようにする。また、実際に実習を行う施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（利用者理解含む。）を深める。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

- ①相談援助実習の意義について理解できる。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得できる。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できる。

【学習目標】

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク実習指導ⅠⅡⅢとソーシャルワーク実習の流れについて）
- 第2回 社会福祉とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第3回 社会福祉とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第4回 実習とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第5回 実習とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第6回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ①（施設職員の講義：集団指導）
- 第7回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ②（①の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第8回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ③（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第9回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④（③の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第10回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑤（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第11回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑥（⑤の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第12回 相談援助を必要とする人の理解 ①（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第13回 相談援助を必要とする人の理解 ②（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第14回 施設見学（施設見学で学んだことをレポートで提出）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況（原則として全出席）、授業への参加態度、課題の提出状況、実習先の評価を総合的に評価する。

【教科書】

実習のてびき（本校作成）
授業時に適宜資料配布

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 05<春>	
福田 公 教	2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導Ⅰにおける個別指導及び集団指導の意義について

さまざまな場면을想定し、知識、技術を深められるようにする。また、実際に実習を行う施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（利用者理解含む。）を深める。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

- ①相談援助実習の意義について理解できる。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得できる。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できる。

【学習目標】

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク実習指導ⅠⅡⅢとソーシャルワーク実習の流れについて）
- 第2回 社会福祉とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第3回 社会福祉とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第4回 実習とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第5回 実習とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第6回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ①（施設職員の講義：集団指導）
- 第7回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ②（①の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第8回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ③（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第9回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④（③の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第10回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑤（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第11回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑥（⑤の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第12回 相談援助を必要とする人の理解 ①（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第13回 相談援助を必要とする人の理解 ②（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第14回 施設見学（施設見学で学んだことをレポートで提出）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況（原則として全出席）、授業への参加態度、課題の提出状況、実習先の評価を総合的に評価する。

【教科書】

実習のてびき（本校作成）
授業時に適宜資料配布

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 06<春>	
松 端 克 文	2単位

【講義概要】

ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導Ⅰにおける個別指導及び集団指導の意義について

さまざまな場면을想定し、知識、技術を深められるようにする。また、実際に実習を行う施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（利用者理解含む。）を深める。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

- ①相談援助実習の意義について理解できる。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得できる。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できる。

【学習目標】

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク実習指導ⅠⅡⅢとソーシャルワーク実習の流れについて）
- 第2回 社会福祉とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第3回 社会福祉とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第4回 実習とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第5回 実習とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第6回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ①（施設職員の講義：集団指導）
- 第7回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ②（①の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第8回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ③（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第9回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④（③の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第10回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑤（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第11回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑥（⑤の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第12回 相談援助を必要とする人の理解 ①（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第13回 相談援助を必要とする人の理解 ②（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第14回 施設見学（施設見学で学んだことをレポートで提出）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況（原則として全出席）、授業への参加態度、課題の提出状況、実習先の評価を総合的に評価する。

【教科書】

実習のてびき（本校作成）
授業時に適宜資料配布

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 07<春>		
丸山裕子	2単位	

【講義概要】

ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導Ⅰにおける個別指導及び集団指導の意義について

さまざまな場面を想定し、知識、技術を深められるようにする。また、実際に実習を行う施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（利用者理解含む。）を深める。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

- ①相談援助実習の意義について理解できる。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得できる。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できる。

【学習目標】

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、相談援助実習の意義について理解し、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（ソーシャルワーク実習指導ⅠⅡⅢとソーシャルワーク実習の流れについて）
- 第2回 社会福祉とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第3回 社会福祉とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第4回 実習とは何か ①（実習の意義と目的：配布資料を使って説明）
- 第5回 実習とは何か ②（グループ内討議と発表）
- 第6回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ①（施設職員の講義：集団指導）
- 第7回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ②（①の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第8回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ③（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第9回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④（③の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第10回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑤（施設職員さんの講義：集団指導）
- 第11回 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ⑥（⑤の振り返り：個別指導、集団指導）
- 第12回 相談援助を必要とする人の理解 ①（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第13回 相談援助を必要とする人の理解 ②（相談援助を必要とする対象者の生活の理解：新聞記事、事例、視聴覚教材等の使用による説明とグループ討議）
- 第14回 施設見学（施設見学で学んだことをレポートで提出）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席状況（原則として全出席）、授業への参加態度、課題の提出状況、実習先の評価を総合的に評価する。

【教科書】

実習のてびき（本校作成）
授業時に適宜資料配布

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
ソーシャルワーク論Ⅰ <通期>		
丸山裕子	4単位	

【講義概要】

制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。ソーシャルワーク実践論の入門と位置づけ、ソーシャルワークの視点、実践概念、実践の構成要素、実践方法、実践の過程とその展開、各論的方法の特性などの解説と考察を通して、総合的な視野から理解を深める。

【学習目標】

- 1 社会福祉概念を明確にすること
- 2 ソーシャルワーク概念を明確にすること
- 3 ソーシャルワーク実践の構成要素への考察を深めること
- 4 ソーシャルワーク実践研究としての過程研究への考察を深めること
- 5 ソーシャルワークの実践方法への考察を深めること
- 6 ソーシャルワーク実践への専門的・科学的視点を明確にすること
- 7 ソーシャルワーク・インターベンション（intervension）の意義・方法・体系について理解を深めること

【講義計画】

- 第1回 社会福祉の概念と特色
- 第2回 ソーシャルワーク実践と社会福祉
- 第3回 ソーシャルワーク概念（Ⅰ）
- 第4回 ソーシャルワーク概念（Ⅱ）
- 第5回 ソーシャルワークの歴史（Ⅰ）
- 第6回 ソーシャルワークの歴史（Ⅱ）
- 第7回 ソーシャルワークの歴史（Ⅲ）
- 第8回 ソーシャルワーク実践方法の枠組み
- 第9回 ソーシャルワーク実践の構成要素
- 第10回 ソーシャルワーク実践の価値と倫理
- 第11回 ソーシャルワーク実践の思考方法と視座
- 第12回 エコシステム視座の特徴（Ⅰ）
- 第13回 エコシステム視座の特徴（Ⅱ）
- 第14回 実践モデルとアプローチ（Ⅰ）
- 第15回 実践モデルとアプローチ（Ⅱ）
- 第16回 エコマップを用いた事例研究（Ⅰ）
- 第17回 エコマップを用いた事例研究（Ⅱ）
- 第18回 ソーシャルワーク実践における過程の意義
- 第19回 ソーシャルワーク実践過程の枠組みと問題
- 第20回 局面過程の展開（Ⅰ）
- 第21回 局面過程の展開（Ⅱ）
- 第22回 局面過程の展開（Ⅲ）
- 第23回 実践者の記録から学ぶソーシャルワークの原則（Ⅰ）
- 第24回 実践者の記録から学ぶソーシャルワークの原則（Ⅱ）
- 第25回 実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅰ）
- 第26回 実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅱ）
- 第27回 実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅲ）
- 第28回 ソーシャルワーク実践における最近の動向（Ⅰ）
- 第29回 ソーシャルワーク実践における最近の動向（Ⅱ）
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

評価は、客観テストや小レポートなどを含め総合的に行うが、出席と参加態度は重視する。主体的な取り組みの姿勢は、高く評価する。

【教科書】

基本的には、担当者が講義資料を作成する。
サブテキスト 伊藤淑子著『社会福祉援助技術とは何か』一橋出版

【参考文献】

そのつど紹介する。
黒木保博他編著『福祉キーワードシリーズ ソーシャルワーク』中央法規
太田義弘他編著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館 など

【備考】

ソーシャルワーク実践論の基盤となる科目である。予習・復習など必要な学習を行い、講義の内容を自らのものとして理解するようこころがけること。

<02～08生>は読替一覧参照の事。

さ
行

科目名	クラス	講義区分
組織倫理学 <春集>		
谷口照三	4単位	

【講義概要】

現代社会は、組織社会と言われている。組織は強力なパワーを持つ。それは、組織が「固有の倫理的価値」を創り出すことと無関係ではない。倫理的な生活を生きようとする人々の能力は、その「組織の倫理」に深く影響されている。それ故に、我々は、組織が非倫理的および倫理的になる可能性とそこで働く人々や他の利害関係者の行動へのそれらの影響に、もっと熱く、強い関心を注がなければならない。さらに、それと同時に、組織で働く、また組織に関係するすべての人々に対しても、良い意味においても、悪い意味においても、当該「組織の倫理」の形成に参加していることへの自覚が、要請されるであろう。

本講義において特に留意した論点は、六点ある。第一点は、組織倫理を語る背景をなす現代社会の諸特徴とそれらの倫理的意味を解釈することである。第二点は、新しい環境倫理や生命倫理は企業倫理との関連で考察しなければ意味が低下し、また企業倫理はそれらを内包しなければ空虚なものになる、という点である。第三の点は、「組織における責任の希薄化」と「組織が個人の非倫理的行動を誘発すること」をもたらす現代組織の論理と仕組みである。第四の留意点は、前者の論点を受け、個人や組織の「責任とは自己の応答可能性を拓いていくことである」という点を説明するために、責任概念の再構築を試みたことである。この再構築は、リスボンシビリティを「応答可能性」と捉え、そのサイクルとプロセスから説明しようとするものである。第五の留意点は、組織倫理を語ることは「組織の責任」を語ることであり、その責任とは「組織自体の応答可能性を拓いていくこと」に他ならないという点である。そのためには、「最高のリーダーシップ」として「組織道徳ないし倫理の創造」が継続的、漸進的になされる必要がある。最後の留意点は、その創造すべき「組織道徳」ないし「組織倫理」の内容や構造は何か、と言う問題である。

【学習目標】

この講義を受講する学生諸君は、上述の留意点で示したことを参考に、組織社会をめぐる倫理的問題状況を自分なりに解釈し、そのことを土台に社会や経営の将来動向を自分なりに自信をもって説明できることを、目標にしなければならない。そのために理解しておかなければならない多くの用語がある。開講時に「組織倫理学専門用語リスト」を配布する。講義の前後に、各自「用語リスト」を用い、関連する用語が理解出来ているかどうか確認することが肝要であろう。

【講義計画】

- 第1回 I. 序論—学問と経営世界：21世紀における経営学—
1. 現代社会と学問の危機
- 第2回 I. 序論—学問と経営世界：21世紀における経営学—
2. 「実践と学問の交互作用」と動的な重層社会としての経営世界
- 第3回 I. 序論—学問と経営世界：21世紀における経営学—
3. 経営学の責任と21世紀的課題
- 第4回 II. 近代社会の変容と経営学の発展
1. 生活への三重の衝動と社会発展
- 第5回 II. 近代社会の変容と経営学の発展
2. 工業化および組織化の進展と経営学の発展
- 第6回 II. 近代社会の変容と経営学の発展
3. 「リスク社会」および「流動化する現代」と経営学の発展
- 第7回 II. 近代社会の変容と経営学の発展
4. 「新たな自由社会」および「新たな共同社会」への動向と経営学の課題
- 第8回 III. 現代社会の倫理的問題状況—環境倫理、生命倫理、企業倫理を中心に—
1. 現代社会への「不安」と倫理問題の浮上と倫理学
- 第9回 III. 現代社会の倫理的問題状況—環境倫理、生命倫理、企業倫理を中心に—
2. 現代社会の問題状況への環境倫理からのアプローチ
- 第10回 III. 現代社会の倫理的問題状況—環境倫理、生命倫理、企業倫理を中心に—
3. 現代社会の問題状況への生命倫理からのアプローチ
- 第11回 III. 現代社会の倫理的問題状況—環境倫理、生命倫理、企業倫理を中心に—
4. 現代社会の問題状況への企業倫理からのアプローチ
- 第12回 IV. 組織倫理を語る視座

- 1. 「組織の責任」と「組織の倫理」—組織の本質とその社会的効果に関する倫理的考察の必要性—
- 第13回 IV. 組織倫理を語る視座
2. 組織と「Ethics without Morality」—組織倫理硬化のメカニズムの必然性— (1)
- 第14回 IV. 組織倫理を語る視座
2. 組織と「Ethics without Morality」—組織倫理硬化のメカニズムの必然性— (2)
- 第15回 IV. 組織倫理を語る視座
3. 組織と「Morality without Ethics」—組織倫理創造の必要性—
- 第16回 V. 組織倫理学構築の基礎—責任経営への動向と責任概念の再構築—
1. 責任経営への動向—ビジネス・エシックス、コーポレート・ガバナンス、環境経営およびCSR経営などの議論を巡って— (1)
- 第17回 V. 組織倫理学構築の基礎—責任経営への動向と責任概念の再構築—
1. 責任経営への動向—ビジネス・エシックス、コーポレート・ガバナンス、環境経営およびCSR経営などの議論を巡って— (2)
- 第18回 V. 組織倫理学構築の基礎—責任経営への動向と責任概念の再構築—
1. 責任経営への動向—ビジネス・エシックス、コーポレート・ガバナンス、環境経営およびCSR経営などの議論を巡って— (3)
- 第19回 V. 組織倫理学構築の基礎—責任経営への動向と責任概念の再構築—
1. 責任経営への動向—ビジネス・エシックス、コーポレート・ガバナンス、環境経営およびCSR経営などの議論を巡って— (4)
- 第20回 V. 組織倫理学構築の基礎—責任経営への動向と責任概念の再構築—
2. 責任概念の再吟味と再構築 (1)
- 第21回 V. 組織倫理学構築の基礎—責任経営への動向と責任概念の再構築—
2. 責任概念の再吟味と再構築 (2)
- 第22回 V. 組織倫理学構築の基礎—責任経営への動向と責任概念の再構築—
3. 個人責任と組織責任の問題への新たな展望
- 第23回 VI. 組織倫理学の本質と射程
1. 組織責任としての「組織倫理の創造」—応答可能性の動的組織化— (1)
- 第24回 VI. 組織倫理学の本質と射程
1. 組織責任としての「組織倫理の創造」—応答可能性の動的組織化— (2)
- 第25回 VI. 組織倫理学の本質と射程
2. 組織倫理の構成要素と構造—技術倫理、事業倫理と組織倫理の関連— (1)
- 第26回 VI. 組織倫理学の本質と射程
2. 組織倫理の構成要素と構造—技術倫理、事業倫理と組織倫理の関連— (2)
- 第27回 VI. 組織倫理学の本質と射程
3. 「人間と組織と社会の新たな繋がり」創出への理論的試みとしての組織倫理学
- 第28回 VII. 結論—経営学の組織倫理的転回—
1. 組織とステイクホルダーとの関係の再考
2. 「根源的経営」から「派生的経営」へ、「派生的経営」からより高次の「根源的経営」へ
3. 責任経営に向けての組織倫理的パラダイムの可能性

【成績評価の方法】

試験 100%
ただし、毎回「ミニット・ペーパー」（記名式で1分程度の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー）を配布し回収する。また、適時、レポートを課す予定。これらは、主体的に勉強してもらいたいために行うものである。

【教科書】

テキストは使用しない。個々のテーマごとレジュメを、また適時資料を配布する。